



Simply Better Connections

## RCMMS

# RCM管理ソフトウェア ユーザーマニュアル

### 本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルは、ATEN International Co., Ltd. が作成した英語版ユーザーマニュアルをもとに、ATEN ジャパン株式会社が機械翻訳をベースに作成したドキュメントです。

日本国内のお客様への便宜を図る目的で公開していますが、用語や表現は機械翻訳による、表記ゆれなどがございます。

本マニュアルには、グローバル共通となる英語版を翻訳したため、日本国内で取り扱いのない製品情報が含まれる場合があります。

製品の取扱いや仕様などは日本国内の法規に抵触する内容を除き、基本的に英語版ユーザーマニュアルが準拠となります。正確性を要する場合は、本マニュアルは英語版を読む際の補助テキストとしてご利用ください。

なお、内容に不備や誤りなどがございましたら、お手数ですが ATEN ジャパン株式会社までお問い合わせさせていただきますようお願い申し上げます。

## ユーザー情報

---

### ユーザーの皆様へ

このマニュアルに記載されているすべての情報、ドキュメント、および仕様は、製造元から事前に通知されることなく変更される場合があります。製造業者は、本契約の内容に関して、明示的または黙示的に表明または保証を行わず、特定の目的のための商業性または適合性に関するいかなる保証も特に放棄します。このマニュアルに記載されている製造元のソフトウェアは、そのまま販売またはライセンスを受けています。購入後にプログラムに欠陥があることが判明した場合、購入者（メーカー、代理店、または販売店は除く）が、必要なすべてのサービス、修理、およびソフトウェアの欠陥に起因する付随的または派生的損害の全費用を負担するものとします。

製造業者は、動作前に正しい電圧設定が選択されていない場合には、このシステムの動作において被るいかなる損害に対しても責任を負いません。使用前に電圧設定が正しいことを確認してください。

# 目次

---

ユーザー情報.....	i
ユーザーの皆様へ.....	i
目次.....	ii
本マニュアルについて.....	v
マニュアル表記について.....	vi
第1章 はじめに.....	1
概要.....	1
特長.....	2
システム要件.....	2
サーバー要件.....	2
ライセンス.....	3
第2章 インストールとライセンス.....	4
概要.....	4
RCM管理ソフトウェアのインストール.....	4
RCMMSのアンインストール.....	6
ライセンス.....	6
第3章 インターフェースと操作.....	8
概要.....	8
インターフェース.....	8
画面各部名称.....	9
パネルアレイ.....	11
RCMデバイスの追加.....	11
グループの追加.....	15
パネルアレイ表示.....	16
第4章 スクリプト.....	18
概要.....	18

<b>スクリプト</b> .....	<b>18</b>
RPAスクリプトの作成 .....	19
RPAスクリプトの編集 .....	19
RPAスクリプトの削除 .....	19
RPAスクリプトのエクスポート/インポート .....	20
<b>スクリプトエディター</b> .....	<b>20</b>
RPAスクリプトの設定 .....	22
スクリプトコンポーネント .....	24
<b>スクリプトのスケジュール</b> .....	<b>26</b>
スケジュールの作成 .....	27
スケジュールの編集 .....	27
スケジュールの削除 .....	27
スケジュールのエクスポート/インポート .....	28
1回きりのスケジュール実行 .....	28
<b>第5章 ユーザー</b> .....	<b>29</b>
<b>概要</b> .....	<b>29</b>
<b>ユーザー</b> .....	<b>29</b>
ユーザーアカウントの追加 .....	31
ユーザーアカウントの編集 .....	32
ユーザーアカウントの削除 .....	32
ユーザーアカウントのエクスポート/インポート .....	32
AD/LDAP設定 .....	34
<b>ユーザーグループ</b> .....	<b>35</b>
ユーザーグループの追加 .....	36
ユーザーグループの編集 .....	37
ユーザーグループの削除 .....	37
ユーザーグループのエクスポート/インポート .....	37
<b>第6章 設定</b> .....	<b>38</b>
<b>概要</b> .....	<b>38</b>
<b>パネルアレイ</b> .....	<b>39</b>
<b>システム</b> .....	<b>40</b>
<b>ホットキー設定</b> .....	<b>41</b>
<b>アクセス制御</b> .....	<b>42</b>
<b>スクリプト</b> .....	<b>42</b>

ログ .....	43
<b>第7章 デバイスの管理・検索</b> .....	<b>44</b>
概要.....	44
<b>管理対象デバイス</b> .....	<b>44</b>
RCMデバイスの追加 .....	45
<b>デバイスの検索</b> .....	<b>47</b>
<b>第8章 Winクライアントビューワー</b> .....	<b>48</b>
概要.....	48
<b>Winクライアントのコントロールパネル</b> .....	<b>48</b>
コントロールパネルの機能.....	50
マクロ .....	52
ビデオ設定 .....	63
メッセージボード.....	67
ズーム.....	74
オンスクリーンキーボード .....	74
マウスポインターの種類 .....	76
マウスダイナシク .....	76
コントロールパネルの設定.....	78
GUIの起動 .....	81
<b>付録</b> .....	<b>82</b>
<b>対応製品</b> .....	<b>82</b>

## 本マニュアルについて

---

このマニュアルは、RCMMSシステムを最大限に活用するために提供された文書です。インストール、設定、操作など、ソフトウェアのすべての側面について説明します。各章で取り上げる情報の概要を以下に示します。

**第1章 はじめに:**RCMMSシステムの目的、特長、利点、フロントパネルとリアパネルのコンポーネントについて説明します。

**第2章 インストールとライセンス:**RCMMSのインストール手順を、順を追って説明します。

**第3章 インターフェースと操作:**RCMMSのユーザーインターフェースと、基本的な操作について説明します。

**第4章 スクリプト:**手動実行または設定済みのスケジュールに従って実行可能なRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)スクリプトの設定方法について説明します。

**第5章 ユーザー:**ユーザーアカウントとユーザーグループの追加・編集・削除、および詳細設定の方法について説明します。

**第6章 設定:**RCMMSのシステム設定機能について説明します。

**第7章 デバイスの管理・検索:**デバイスの管理・検索の方法について説明します。

**第8章 Winクライアントビューワー:**Winクライアントビューワーのコントロールパネルの使用方法について説明します。

**付録:**技術サポート情報を提供します。

---

### 注意:

- ◆ 本書をよくお読みになった上で、設置・操作の手順に従い、本製品および接続機器の破損を防止してください。
- ◆ ATENでは新規仕様を反映させたファームウェアや関連ドキュメントを定期的にWebサイトに公開しています。最新のRCMMSドキュメントについては、以下を参照してください。

<http://www.aten.com/global/en/>

---

## マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

- [ ] 押すべきキーを示します。入力するキーを示します。例えば [Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。
- 1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
- > (メニューやダイアログボックスなどで)連続したオプションを選択することを示します。矢印は操作の手順を示します。例えば「スタート」>「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

# 第1章

## はじめに

### 概要

---

ATEN RCMMSは、ネットワーク内の複数のRCMデバイスに対して、アクセスや監視を一元管理し、制御をカスタマイズできる、Windowsベースの管理ソフトウェアです。

IP-KVMエクステンダー、あるいはシングルポートIP-KVMやマルチポートのIP-KVMスイッチなど、あらゆるタイプのRCMデバイスを統合することにより、RCMMSは、隔離されたセキュアな環境にまたがる生産ラインにおいて、ITインフラの管理を統合したいといった管理者のニーズを満たせる製品です。

パネルアレイとWinクライアントビューワーを採用しているため、オペレーターは1画面を5×5分割した表示で最大25個のデバイスポートを簡単に同時監視できます。このため、必要に応じて特定のPC/ワークステーションへ瞬時にリモートアクセスすることが可能になります。

RCMMSを活用することで、オペレーターは様々な業種において、生産ラインで発生した問題に対して迅速に対応し、効率的にトラブルシューティングできるため、システムの完全な管理が可能になります。

## 特長

---

- ◆ すべてのATEN RCMデバイスの管理をシングルサインオンで統合
- ◆ デバイスとパネルアレイのグループ化により管理が便利で簡単
- ◆ パネルアレイのレイアウトは、ポートが同時に監視できるよう最大25 (5×5) 分割にカスタマイズ可能
- ◆ RCMデバイスのポートには、Winクライアントビューワー経由で即時にリモートアクセス可能
- ◆ RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)によるスクリプト作成と各種条件やアクションの自動処理
- ◆ 種類が豊富で包括的なアプリケーション向けに柔軟な画像設定を提供
- ◆ AD/LDAPサーバーによるアカウント認証
- ◆ イベント通知およびアクセスコントロールボックスのプッシュボタン警告

## システム要件

---

### サーバー要件

RCMMSサーバーをインストールするシステムは、以下の要件を満たす必要があります。

#### ◆ PCの要件

	推奨	最小
CPU	Intel Core i5 3GHz以上	Intel Core i3 2GHz以上
OS	Windows 7/10	
メモリ	4 GB以上	
ハードドライブ	32 GB以上(プログラムが250 ~300MB を占有する場合)	
イーサネット	1つ以上のイーサネットアダプター(100 Mbps 以上) - Giga LAN推奨	

## ライセンス

---

RCMMSライセンスは、システムにおいて許可されるKVMポートの総数を管理します。このポートは、担当代理店から購入してアクティブ化する必要があります。

# 第2章 インストールとライセンス

## 概要

---

この章では、複数のRCMデバイスを一元的に管理・監視するためのRCM管理ソフトウェア(RCMMS)をWindowsコンピューターにインストールする方法について説明します。

## RCM管理ソフトウェアのインストール

---

1. 担当代理店から提供されたアプリケーション「RCMMS\_Setup.exe」を実行してください。インストーラーが表示されます。



2. ドロップダウンリストから目的の言語を選択し、「OK」をクリックしてインストールを開始してください。次に、画面の指示に従ってRCMMSをインストールしてください。

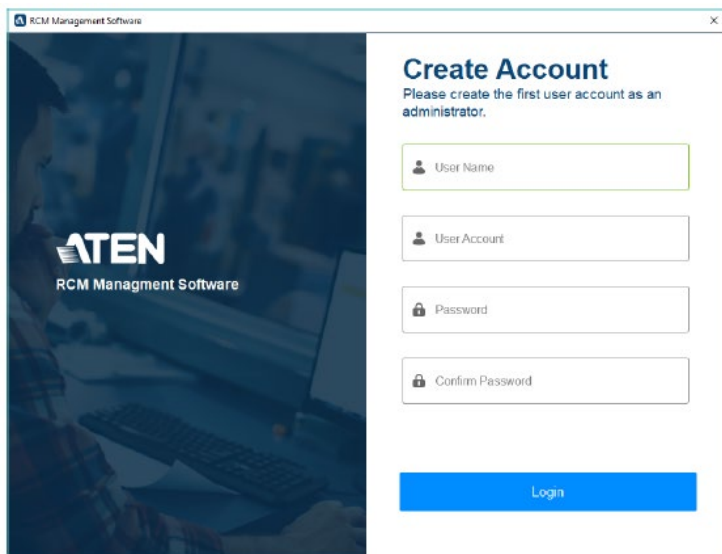
---

### 注意:

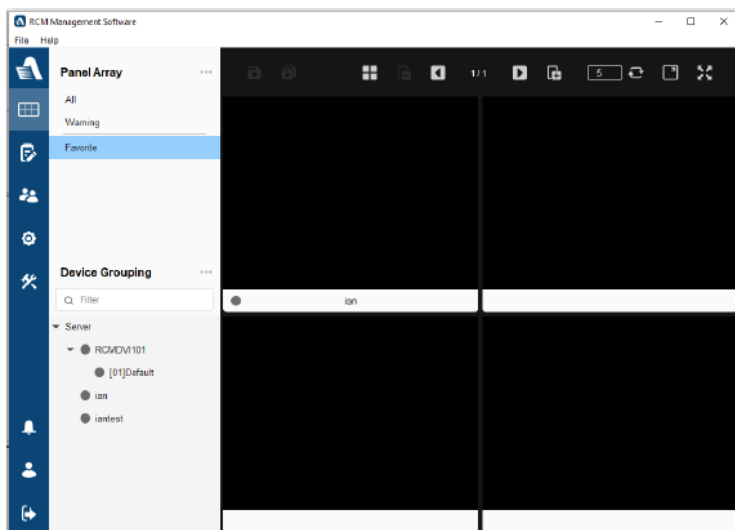
ライセンス契約の画面で、手続きを進める前に、ライセンス契約の条件をよく読み、同意してください。

---

3. 終了後、RCMMSを初めて実行すると、ユーザーはシステムへのフルアクセス権と設定権を持つ管理者アカウントを作成するよう求められます。



4. 管理者アカウントのユーザー名、アカウント名、パスワードを定義し、「ログイン」をクリックしてください。RCMMS のメイン画面が表示されます。



RCMMSにおけるユーザーインターフェースの機能とレイアウトの概要については、p.8「インターフェースと操作」を参照してください。

## RCMMSのアンインストール

---

「スタート」メニュー > 「ATEN」 > 「RCM管理ソフトウェアのアンインストール」を選択してください。

---

### 注意:

RCMMSをアンインストールしても、操作中に作成されたファイルやフォルダーがすべて削除されるわけではありません。

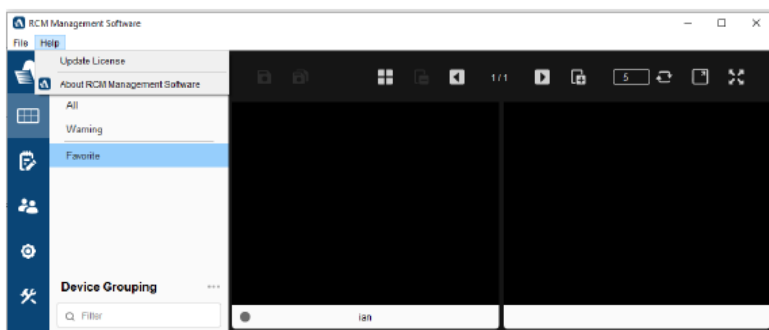
---

## ライセンス

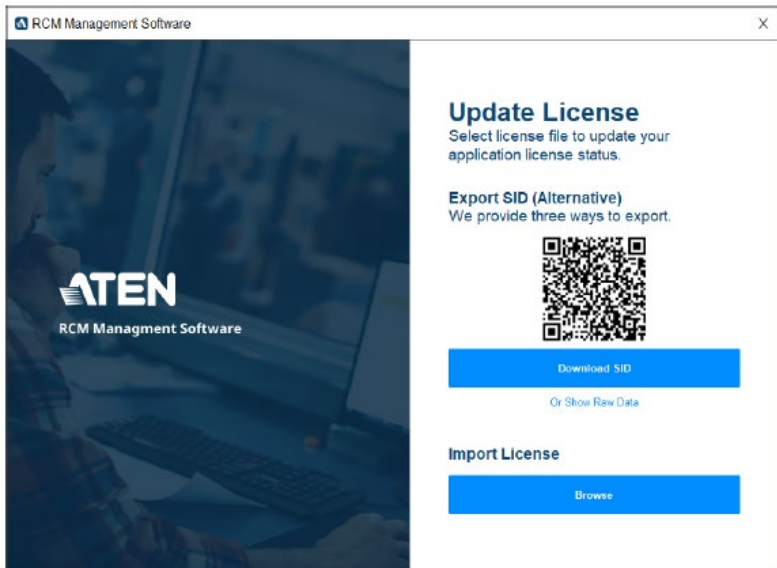
---

RCMMSライセンスを申請してアクティブ化するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. RCMMSで、「ヘルプ」 > 「ライセンスの更新」の順にクリックしてください。「ライセンスの更新」ダイアログボックスが表示されます。



2. 「ライセンスの更新」ダイアログボックスで、以下の3つの方法のいずれかを使用して、RCMMSのサーバー情報をエクスポートしてください。



- ◆ QRコードをスキャンして、\*.sid ローデータをモバイルデバイスに表示してください。
  - ◆ 「SIDのダウンロード」をクリックして、\*.sidファイルをPCに保存してください。
  - ◆ \*.sid ローデータをコピーするには、「ローデータの表示」>「データのコピー」をクリックしてください。
3. \*.sidファイルまたはローデータを担当代理店に提供し、必要なポート数のRCMMSライセンスを申請して購入してください。
  4. 担当代理店から\*.licライセンスファイルを受け取ったら、PCに保存し、「ライセンスのインポート」における「参照」を選択することでRCMMSにインポートしてください。

ライセンスが正常にアクティブ化されると、ユーザーは、購入したライセンスで許可されているRCM KVMポート数分だけ、ライセンスの追加、管理、監視、およびアクセスが可能になります。

# 第3章

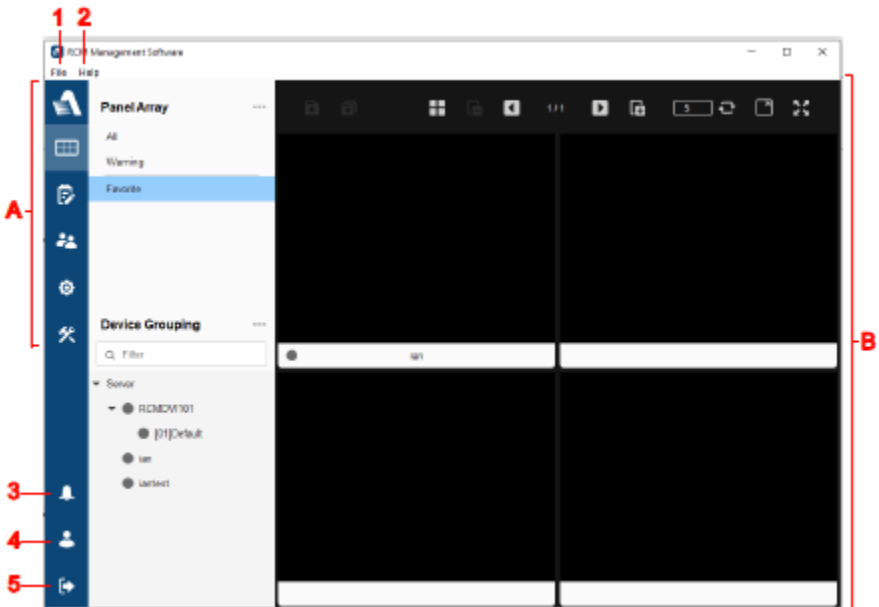
## インターフェースと操作

### 概要

デフォルトでは、ログイン時に「パネルアレイ」画面が表示されます。この画面では、ユーザーは同時に追加されたすべてのRCMデバイス/ポートの監視、およびRCMデバイスの追加・削除・グループ化が可能です。

### インターフェース

RCMMSの全般的なインターフェースとその構成要素(セクションと項目)を以下に示します。



## 画面各部名称

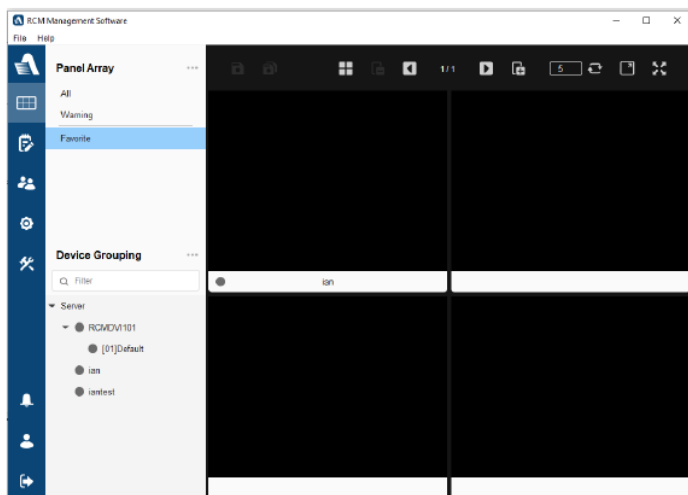
画面各部名称については、以下の表で説明します。

番号	項目	説明
A	サイドバーメニュー	以下の機能の画面間で表示切替を行うためのメイン選択メニューです： <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>パネルアレイ</b>:追加されたすべてのRCMデバイスを管理および監視します。</li><li>◆ <b>RPAスクリプト</b>:ユーザーは、指定されたスケジュールに従って実行されるRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)スクリプトを定義できます。</li><li>◆ <b>ユーザー&amp;グループ</b>: (アドミニストレーターのアカウント限定)ユーザー、ユーザーグループ、および操作権限の管理を行います。</li><li>◆ <b>設定</b>:ユーザー、パネルアレイ、システム設定、およびそのログなど、RCMMSの各種システム設定が含まれます。</li><li>◆ <b>デバイスの管理・検索</b>: (アドミニストレーターのアカウント限定)デバイスの管理と再起動を行います。</li></ul>
B	インタラクティブ表示	このセクションはメインの作業領域で、選択したサイドバーメニューの項目を反映します。
1	ファイル	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>新規</b>:現在のデータベースを消去します。</li><li>◆ <b>開く</b>:以前に保存したデータベースでRCMMSを再起動します。</li><li>◆ <b>名前を付けて保存</b>:現在の設定をデータベースファイルとして保存します。</li><li>◆ <b>終了</b>:RCMMSを終了して閉じます。</li></ul>
2	ヘルプ	<b>ライセンスの更新</b> :p.3「ライセンス」を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>◆ <b>RCMMSについて</b>:RCMMSの情報を表示します。</li></ul>

番号	項目	説明
3	通知	<p>通知がある場合は、ベルのアイコンに赤い点が表示されます。</p> <p>ここに表示される情報は、ユーザーの権限によって異なります。</p> <p>このアイコンをクリックすると、古いものから順に通知が表示されます。</p> <p>通知をクリックすると、警告パネルにジャンプします。すべての通知を消去するには、「すべて削除」を選択します。</p>
4	ユーザー情報	<p>現在ログインしているユーザーの名前とアカウントの種類、ログイン時間が表示されます。</p>
5	ログアウト	<p>RCMMSからログアウトします。</p>

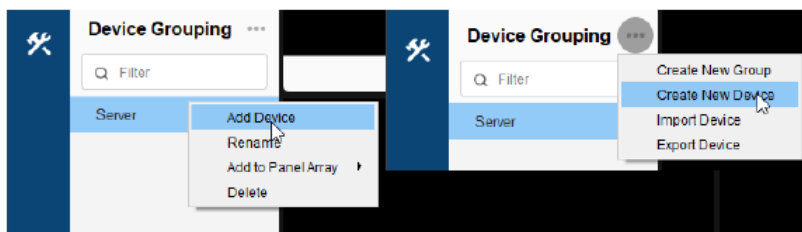
## パネルアレイ

「パネルアレイ」画面では、RCMデバイスの追加や編成が行えるだけでなく、最大25台のRCMデバイスポートを同時に監視することができます。



## RCMデバイスの追加

1. RCMデバイスの追加を開始するには、「デバイスのグループ化」の横にある \*\*\* > 「新規デバイスの作成」をクリックするか、任意のグループを右クリックして「デバイスの追加」を選択してください。



2. 表示されるダイアログボックスで、追加するRCMデバイスに関する必須情報を入力してください。

The 'Edit Device' dialog box is shown with the following details:

- Name:** Empty text field.
- Group:** Dropdown menu set to 'Server'.
- IP:** Empty text field.
- Port:** Text field containing '9000'.
- User Account:** Empty text field.
- Password:** Empty text field.
- Audio:**
  - Support Audio
  - KE Streaming
  - KE Transmitter:** Empty text field.
  - KE Receiver:** Empty text field.
- Device Port Setting:**
  - Multi-port Device
  - Table with columns 'Port' and 'Port Name':

Port	Port Name
1	Default

- ◆ **名前:** RCMデバイスの名前を入力してください。
- ◆ **グループ:** 分類するRCMデバイスのグループを選択してください。グループの作成については、p.15「グループの追加」を参照してください。
- ◆ **IP、ポート、アカウント&パスワード:** RCMデバイスのIPアドレス、通信ポート、アカウントとパスワードを入力してください。
- ◆ **オーディオ:** 指定されたKEトランスミッターとKEシーバーからのオーディオとKEストリーミングのサポートを有効にします。
  - **オーディオサポート:** オーディオサポートを有効または無効にします。
  - **KEストリーミング:** KEストリーミングを有効または無効にします。










有効時は、KEストリーミングを有効にしたいKEトランスミッターとKEレシーバーのIPアドレスを入力します。

- ◆ **デバイスポート設定:** 複数ポートのRCMデバイスのみ。「マルチポートのデバイス」を選択し、「+」ボタンをクリックしてポートを追加したら、各ポートに任意の名前を入力してください。

3. すべての情報を入力したら、「**保存**」をクリックします。RCMMSIにRCMデバイスが追加されます。

### デバイス/ポートの状態

各RCMデバイス/ポートの状態は、次のようなアイコンで示されます。

デバイスアイコン	説明	ポートアイコン
	オンラインで、アクティブなビデオ表示があることを表します。	
	オンラインではあるものの、アクティブなビデオ表示がないことを表します。	
	オンラインではあるものの、ビデオ信号がないことを表します。	
	オンラインではあるものの、セッションを開始できないことを表します。	
	オフラインであることを表します。	

## デバイス/ポートのオプション

ユーザーは、RCMデバイス/ポートを右クリックすることで、下表に示す各種オプションを使用することができます。

### デバイス

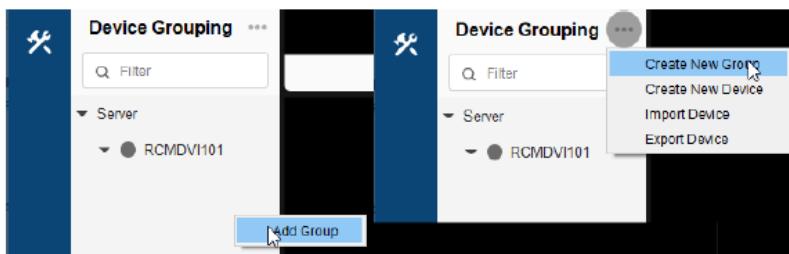
項目	説明
編集	RCMデバイスを編集します。
パネルアレイに追加	デバイス/ポートをパネルアレイに追加します。p.16「パネルアレイ表示」を参照してください。
ビューワーにジャンプ	デバイス/ポートを含むパネルアレイを表示します。
Winクライアントの起動	Winクライアントを起動して、デバイスポートにリモートアクセスします。p.48「Winクライアントビューワー」を参照してください。
他のグループに移動	デバイスを別のグループに移動する場合に選択します。
削除	RCMデバイスを削除します。

### ポート

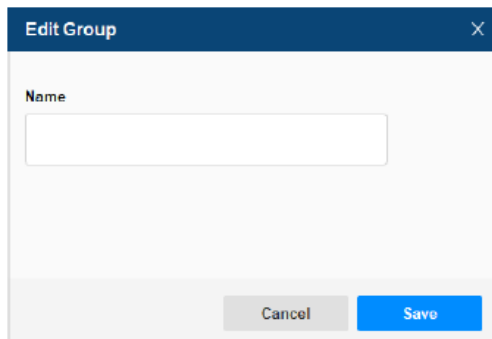
項目	説明
名称変更	RCMデバイスのポートの名前を変更します。
パネルアレイに追加	ポートをパネルアレイに追加します。p.16「パネルアレイ表示」を参照してください。
ビューワーにジャンプ	ポートを含むパネルアレイを表示します。
Winクライアントの起動	Winクライアントを起動して、デバイスポートにリモートアクセスします。p.48「Winクライアントビューワー」を参照してください。
削除	RCMデバイスのポートを削除します。

## グループの追加

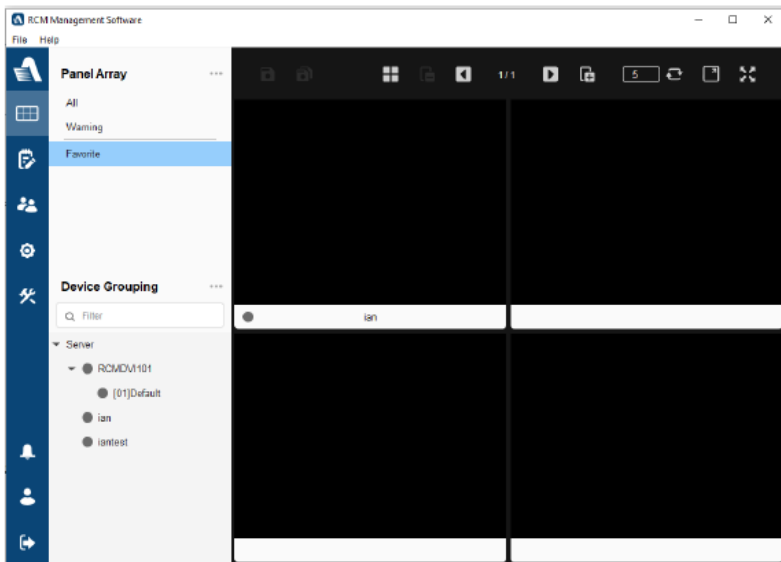
1. RCMデバイスを管理するためのグループを追加するには、「デバイスのグループ化」の横にある \*\*\* > 「新規グループの作成」をクリックするか、「デバイスのグループ化」パネルを右クリックして「グループの追加」をクリックしてください。



2. 表示されるダイアログボックスで、RCMグループの名前を入力し、「保存」をクリックしてください。

The image shows a dialog box titled 'Edit Group' with a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there is a label 'Name' above a text input field. At the bottom of the dialog, there are two buttons: 'Cancel' and 'Save'.

## パネルアレイ表示














パネルアレイ表示には、以下で説明する3つのタイプがあります。

項目	説明
すべて	RCMMSIに追加されたすべてのRCMデバイス/ポートを監視します。
警告	警告イベントが発生するRCMデバイス/ポートが含まれます。
カスタム (例: お気に入り)	目的のRCMデバイス/ポートをクリックして、任意のカスタマイズしたパネルアレイ表示にドラッグすると、同時監視を便利に行うことができます。

## パネルアレイの機能



パネルアレイの機能については、以下の表で説明します。

アイコン	機能
	カスタムパネルアレイの場合のみ、現在のパネルアレイを保存します。
	カスタムパネルアレイの場合のみ、新規パネルアレイとして保存します。
	パネルアレイのレイアウトビューを設定し、最大5×5の分割画面でRCMデバイス/ポートを同時にモニタリングします。
	パネルアレイの新しいレイアウト画面を追加します。最大10画面まで追加できます。
	パネルアレイのレイアウト画面を削除します。
	前の画面に移動します。
	次の画面に移動します。
	レイアウトページをめくる時間を1～360秒の範囲で設定します。
	クリックすると、指定した時間範囲でレイアウトページをめくります。もう一度クリックすると、停止します。
	別ウィンドウで表示します。
	フルスクリーンで表示します。


# 第4章

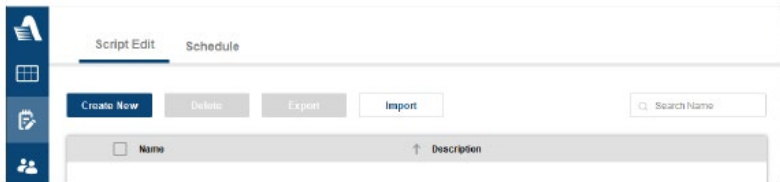
## スクリプト

### 概要

「スクリプト」画面では、指定したスケジュールに従って実行可能なRPA（ロボット・プロセス・オートメーション）スクリプトを設定できます。

### スクリプト

開始するには、 > 「スクリプト編集」をクリックしてください。次の画面が表示されます。

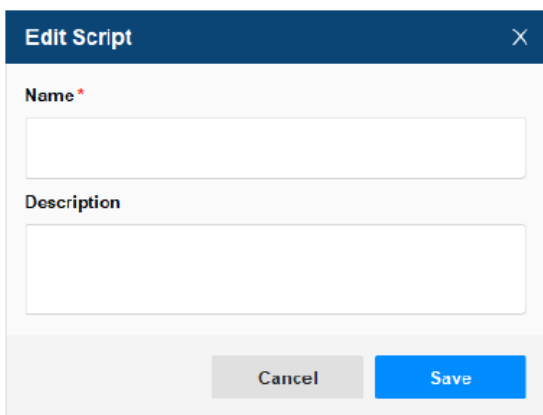


「スクリプト」タブでは、次の機能を提供しています。

機能	説明
新規作成	RPAスクリプトを作成します。詳細はp.19「RPAスクリプトの作成」を参照してください。
削除	RPAスクリプトを削除します。詳細はp.19「RPAスクリプトの削除」を参照してください。
エクスポート	RPAスクリプトを、*.scp 形式のファイルでエクスポートします。詳細はp.20「RPAスクリプトのエクスポート/インポート」を参照してください。
インポート	RPAスクリプトを、*.scp 形式のファイルからインポートします。詳細はp.20「RPAスクリプトのエクスポート/インポート」を参照してください。
名前の検索	特定のRPAスクリプトをキーワード検索します。

## RPAスクリプトの作成


1. 新しいRPAスクリプトを作成するには、「**新規作成**」をクリックしてください。
2. 表示されるダイアログボックスで、作成するスクリプトの名前と説明を入力し、「**保存**」をクリックしてください。



The image shows a dialog box titled "Edit Script" with a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there are two text input fields. The first is labeled "Name \*" and the second is labeled "Description". At the bottom of the dialog, there are two buttons: "Cancel" and "Save".

3. 作成すると、スクリプトエディターが表示されます。詳細については、p.20「スクリプトエディター」を参照してください。

## RPAスクリプトの編集

RPAスクリプトを編集するには、スクリプトを選択して「**編集**」ボタン(  )をクリックしてください。

## RPAスクリプトの削除

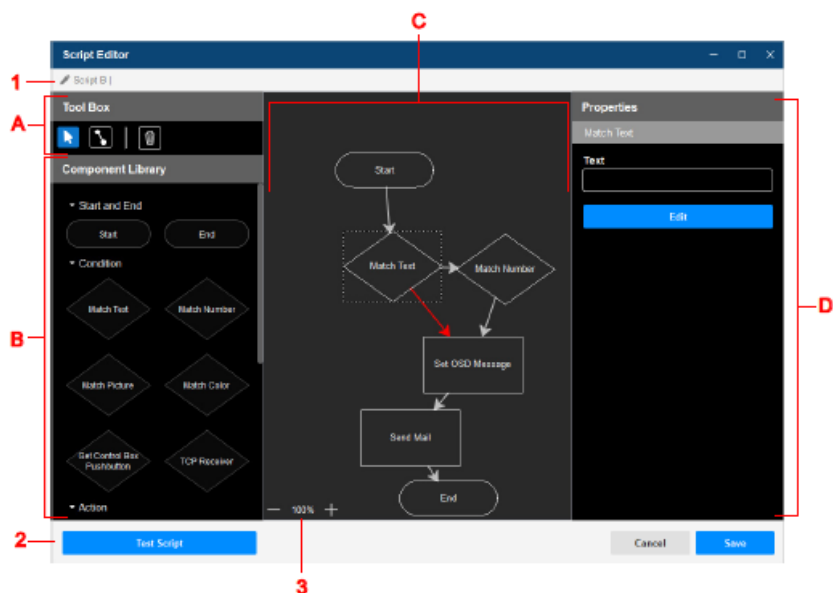
RPAスクリプトを削除するには、スクリプトを選択して(複数選択可)、「**削除**」ボタン( **Delete** )をクリックしてください。


## RPAスクリプトのエクスポート/インポート

エクスポート/インポート機能を使用すると、アドミニストレーターは、RPAスクリプトのバックアップと別のRCMMSへのインポートのために、すべてのRPAスクリプトを\*.scp形式のスクリプトデータベースにエクスポートすることができます。


## スクリプトエディター

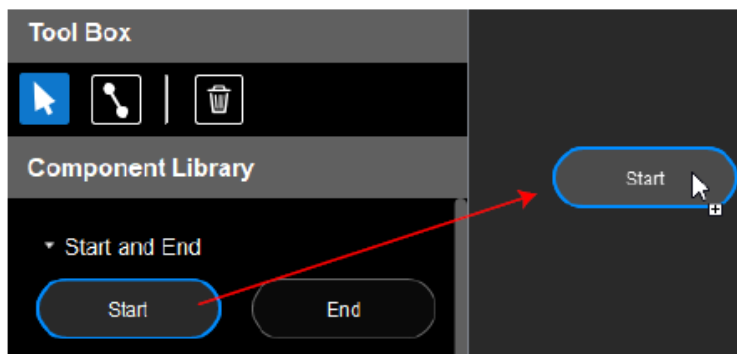
スクリプトエディターのインターフェースと各部名称については、以下で説明します。




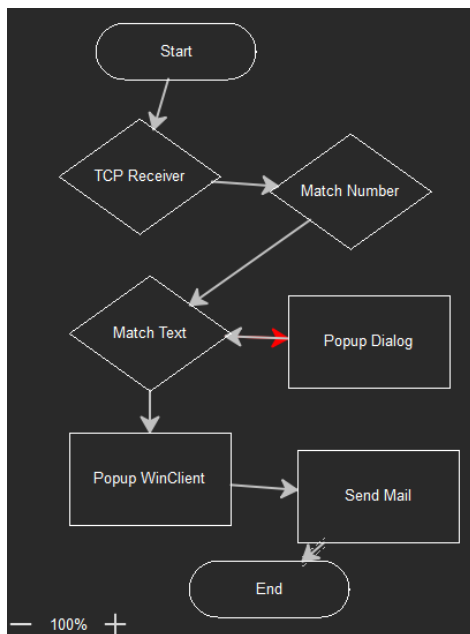
番号	項目	説明
A	ツールボックス	以下のツールが含まれます： <ul style="list-style-type: none"> <li>◆  <b>選択</b>: コンポーネントをドラッグ&amp;ドロップすることで、インタラクティブ・スクリプト内に追加または移動します。</li> <li>◆  <b>フロー</b>: 選択、ドラッグおよびリリースという操作によって、インタラクティブ・スクリプト内のコンポーネントをリンクします。</li> <li>◆  <b>削除</b>: インタラクティブ・スクリプト内で選択したコンポーネントを削除します。</li> </ul>
B	コンポーネントライブラリ	ドラッグ & ドロップでインタラクティブ・スクリプトに追加できる使用可能なコンポーネントのタイプを一覧表示します。
C	インタラクティブ・スクリプト	スクリプトに現在含まれているコンポーネントとフローを表示します。
D	コンポーネントのプロパティ	インタラクティブ・スクリプト内で、現在選択されているコンポーネントのプロパティを表示および編集します。
1	スクリプト情報	スクリプトの名前と説明を表示および編集します。
2	スクリプトのテスト	現在設定されているスクリプトを実行し、テストします。
3	表示サイズ	インタラクティブ・スクリプトの表示サイズを調節します。




## RPAスクリプトの設定

1. 開始するには、を選択して、「開始」コンポーネントをコンポーネントライブラリからインタラクティブ・スクリプトに対してドラッグ & ドロップしてください。



2. インタラクティブ・スクリプトに、必要な数のコンポーネント、条件、アクションをドラッグ & ドロップしてください。
3. 以下に例示するように、コンポーネントを実行する順序を定義するフロー矢印ボタンを作成するために、を選択して、1つのコンポーネントから次のコンポーネントまでドラッグしてください。



4. コンポーネントまたはフロー矢印のプロパティを表示および編集するには、 を選択して、編集するコンポーネントまたはフロー矢印をクリックしてください。
5. 任意のコンポーネントまたはフロー矢印を削除するには、 を選択し、削除するコンポーネントまたはフローをクリックし、 をクリックしてください。
6. (オプション) 現在構成されているスクリプトをテストするには、「**スクリプトのテスト**」を選択してください。

スクリプトの定義が完了したら、「**保存**」をクリックしてください。


## スクリプトコンポーネント

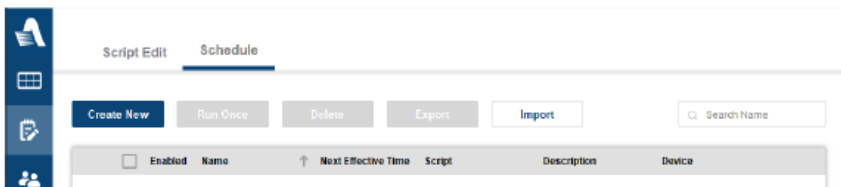
以下は、RPAスクリプトに追加できるコンポーネント、条件、およびアクションのリストです。

種類	項目	説明
開始と終了	開始	RPAスクリプトの開始を示します。
	終了	RPAスクリプトの終了を示します。
条件	テキストに一致	テキスト文字列を定義し、OCRを使用してサーバーの表示情報と一致するかどうかを確認します。
	数値に一致	数値プロパティを定義し、OCRを使用してサーバーの表示情報と一致するかどうかを確認します。
	画像に一致	*.bmpイメージを選択し、サーバーの表示情報と一致するかどうかを確認します。
	色と一致	カラーコードを定義し、サーバーの表示情報と一致するかどうかを確認します。
	コントロールボックス押しボタンの取得	接続されているATENアクセスコントロールボックスからブッシュボタンの状態を取得します。
	TCPレシーバー	TCPレシーバーチャンネルを設定して、応答セットと完全または部分的に一致する一連のデータをTCPクライアントから取得します。 <b>注意:</b> TCPポート値を変更するには、p.42「TCPレシーバー設定」を参照してください。
	DIチェック	RCMシリーズに接続されたデジタル入力の高低ステータスをチェックします。この機能は、RCMDVI00BT、RCMDVI40BT、および RCMDVI50Tでのみ使用可能です。
	確認ダイアログ	ポップアップダイアログの後に確認ボタンを表示し、ユーザーが次のステップに進むかどうかを決定できるように設定します。
	音声検出	ソースPCからのオーディオ信号を検出します。この機能は、RCMVGA101、RCMDVI101、RCMDP101U、およびRCMHD101Uでのみ使用できます。
HTTPレシーバー	他のサーバーからの http リクエストを受信し、リクエストを比較します。	

種類	項目	説明
アクション	パネルアレイのカラーハイライト	色が設定されているサーバーを強調表示し、オプションで警告として表示します。
	ポップアップダイアログ	内容が定義されたポップアップダイアログを起動します。
	ビューワーのポップアップ	ビューワーウィンドウを起動します。
	キーボード/マウスを送信	定義されたキーボードとマウス操作を送信します。
	マウスモードの設定	マウスを自動または手動モードに設定します。
	アクセスタイプの設定	サーバーのアクセス権限を設定します。
	遅延時間	最大3600秒の遅延を設定します。
	コマンド行	定義したコマンドを実行します。
	OSDメッセージの設定	ローカルまたはリモートのいずれかで、位置セットにOSDメッセージを定義します。
	メール送信	SMTP経由で電子メールを送信します。 <b>注意:</b> SMTPサーバー設定を定義するには、p.42「SMTP設定」を参照してください。
	OCRテキストの保存	保存するOCRテキストのテキストモードと出力パスを設定します
	リレー/DO	RCM シリーズを設定して、接続されたデバイスにリレー(クローズ / オープン)、デジタル出力(高 / 低)信号を送信します。この機能は、RCMDVI00BT、RCMDVI40BT、およびRCMDVI50T でのみ使用できます。
	オーディオ再生	特定のオーディオファイルを再生します。
	HTTPリクエスト	HTTPリクエストを他のサーバーに送信します。
イメージの保存	ソースPCの現在のスクリーンショットをキャプチャーし保存します。	

## スクリプトのスケジュール

「スケジュール設定」画面では、RPAスクリプトを実行するスケジュール設定を作成できます。開始するには、 > 「スケジュール」をクリックしてください。次の画面が表示されます。



「スケジュール」タブでは、次の機能を提供しています。

機能	説明
新規作成	スケジュールを作成します。詳細はp.27「スケジュールの作成」を参照してください。
1回だけ実行	選択したスケジュールを1回だけ実行します。p.28「1回きりのスケジュール実行」を参照してください。
削除	スケジュールを削除します。詳細はp.27「スケジュールの削除」を参照してください。
エクスポート	スケジュールを、*.scd 形式のファイルでエクスポートします。詳細はp.28「スケジュールのエクスポート/インポート」を参照してください。
インポート	スケジュールを、*.scd 形式のファイルからインポートします。詳細はp.28「スケジュールのエクスポート/インポート」を参照してください。
名前の検索	特定のスケジュールをキーワード検索します。


## スケジュールの作成

1. 新しいスケジュールを作成するには、「**新規作成**」をクリックしてください。
2. 表示されるダイアログボックスで、作成するスケジュールの名前と説明を入力し、スクリプトを選択してください。
3. 「日時」で、RPAスクリプトをいつ実行するかを定義してください。

選択	説明
1回	RPAスクリプトを、設定された日時に一度だけ実行します。
日単位	設定された日付間で毎日同じ時間にRPAスクリプトを実行します。
週単位	RPAスクリプトを1週間に1回、設定した時間と曜日に実行します。
繰り返し	設定された日付間で、Xミリ秒ごとにRPAスクリプトを繰り返し実行します。
エンドレス	RPAスクリプトを有効にすると、Xミリ秒ごとに繰り返し、無限に実行します。

4. RPAスクリプトとスケジュールを適用するRCMデバイスを選択してください。
5. 「**保存**」をクリックしてください。

## スケジュールの編集

スケジュールを編集するには、スケジュールを選択して「**編集**」ボタン(  )をクリックしてください。

## スケジュールの削除

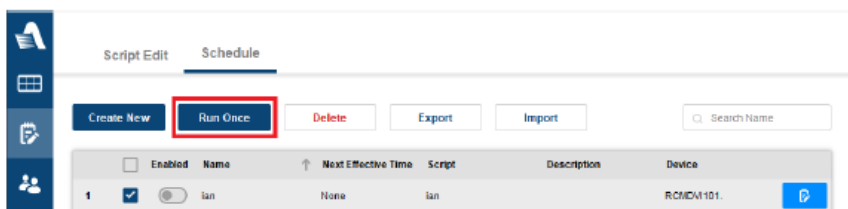
スケジュールを削除するには、スケジュールを選択して(複数選択可)、「**削除**」ボタン( **Delete** )をクリックしてください。

## スケジュールのエクスポート/インポート

エクスポート/インポート機能を使用すると、アドミニストレーターは、スケジュールのバックアップおよび別のRCMMSへのインポートのために、すべてのスケジュール設定を\*.scd形式のスケジュール・データベースにエクスポートすることができます。

## 1回きりのスケジュール実行

スケジュールを1回実行するには、設定されたスケジュールの範囲外で、そのスケジュールを選択して「**1回実行**」をクリックしてください。



# 第5章

## ユーザー


### 概要

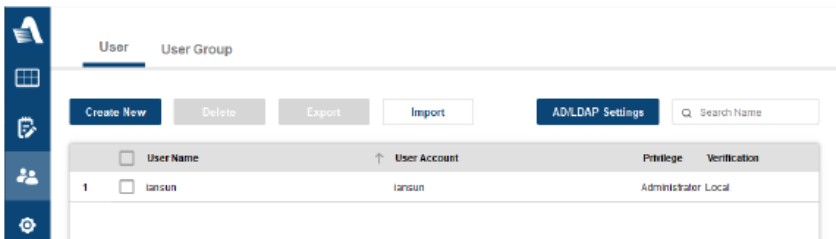
---

管理者アカウントに限定された機能です。「ユーザー」タブでは、ユーザーアカウントと権限を管理できます。

### ユーザー

---

操作を始めるには、 > 「ユーザー」をクリックします。そうすると、下図のような画面が表示されます。



「ユーザー」タブでは、次の機能を提供しています。

機能	説明
新規作成	ユーザーアカウントを作成します。詳細はp.31「ユーザーアカウントの追加」を参照してください。
削除	ユーザーアカウントを削除します。詳細はp.32「ユーザーアカウントの削除」を参照してください。
エクスポート	ユーザーアカウントを、*.xlsx 形式のファイルでエクスポートします。詳細はp.32「ユーザーアカウントのエクスポート/インポート」を参照してください。
インポート	ユーザーアカウントを、*.xlsx 形式のファイルからインポートします。詳細はp.32「ユーザーアカウントのエクスポート/インポート」を参照してください。
AD/LDAP設定	AD/LDAP設定を行います。詳細はp.34「AD/LDAP設定」を参照してください。
名前の検索	特定のユーザーアカウントをキーワード検索します。

設定可能なユーザーアカウントには、次の2種類があります。

アカウントタイプ	説明
アドミニストレーター	アドミニストレーターには、RCMMSおよび追加されたすべてのRCMデバイス/ポートに対するフルアクセス権と設定権があります。
一般ユーザー	一般ユーザーは、許可されているRCMデバイス/ポートにのみアクセス権と設定権があります。

## ユーザーアカウントの追加

1. 新しいユーザーアカウントを追加するには、「**新規作成**」をクリックします。
2. 表示されるダイアログボックスで、作成アカウントに必要な情報を入力してください。

The screenshot shows the 'Edit User' dialog box. It includes fields for 'User Name', 'User Account', and 'Password'. There are also dropdown menus for 'Privileges' (Normal User), 'Verification' (Local), and 'Group' (None). On the right, there is a 'Select target devices' section with a 'Group Based' toggle and a 'View only' button. Below this, there is a list of devices with checkboxes: 'Server', 'RCMDV1101', 'ian', and 'ian1est'. At the bottom right, there are 'Cancel' and 'Save' buttons.


- ◆ **ユーザーネーム、アカウント、パスワード**: 作成するアカウントのユーザー(表示)名、アカウント名、パスワードを定義してください。
- ◆ **権限**: 一般ユーザーとアドミニストレーターから選択してください。一般ユーザーとアドミニストレーターは、ローカルまたはAD/LDAP経由で認証できます。
- ◆ **認証**: ローカルとAD/LDAP 経由のどちらで認証するかを選択します。
- ◆ **グループ**: ユーザーを追加するユーザーグループを選択します。
- ◆ **ターゲットデバイスの選択**: 一般ユーザーのみ、アカウントがアクセスできるRCMデバイスを選択してください。

### ➤ グループ別

- ▶ **表示のみ**:オプションで表示のみの切り替えをONにする(●)と特定のRCMデバイスの設定権限を拒否します。

3. 完了したら、「保存」をクリックしてください。RCMMSユーザーアカウントが作成されます。

## ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集するには、アカウントを選択して「編集」ボタン(  )をクリックしてください。

## ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除するには、ユーザーアカウントを選択して(複数選択可)、「削除」ボタン( **Delete** )をクリックしてください。

## ユーザーアカウントのエクスポート/インポート

エクスポート/インポート機能により、アドミニストレーターは、ユーザーアカウントのバックアップと別のRCMMSへのインポートのために、すべてのユーザーアカウントを\*.xlsx形式のユーザーリストにエクスポートすることができます。

### エクスポート済みユーザーリストの編集

ユーザーリストをエクスポートすると、既存のユーザーアカウントは、Excelファイルの「Encrypt\_User\_Table」タブに表示されなくなります。

	A	B	C	D	E
1	AD	Account	Password	Username	Group
2					
3					


RCMMSに一括で追加する新しいユーザーを作成するには、ユーザーリストをインポートする際に、「Text\_User\_Table」タブを選択し、以下の説明に従って必須項目に入力してください。

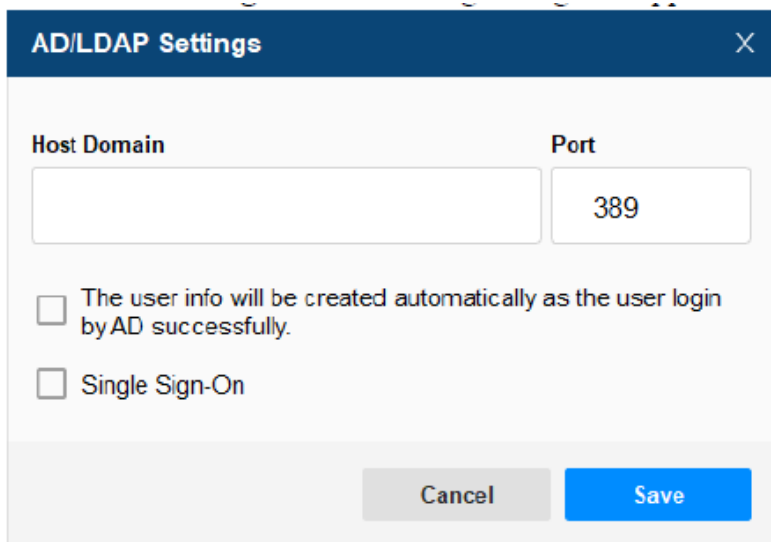
	A	B	C	D
1	AD	Account	Password	Username
2	0	User	Test1	User
3	0	Guest	Test2	VIP
4				

AD	アカウント	パスワード	ユーザーネーム
検証タイプを定義します。0 = ローカル、1 = AD	ユーザーアカウントのログイン名を定義します。	ユーザーアカウントのログインパスワードを定義します。	アカウントの表示名を入力します。

新規ユーザーそれぞれについて、すべての必須項目が入力されたら、ユーザーリストを保存してRCMMSにインポートし、追加してください。

## AD/LDAP設定

AD/LDAPを介して認証されるRCMMSのユーザーアカウントの場合は、 > 「ユーザー」 > 「AD/LDAP設定」をクリックしてください。次のダイアログボックスが表示されます。



AD/LDAP Settings

Host Domain Port

389

The user info will be created automatically as the user login by AD successfully.

Single Sign-On


Cancel Save

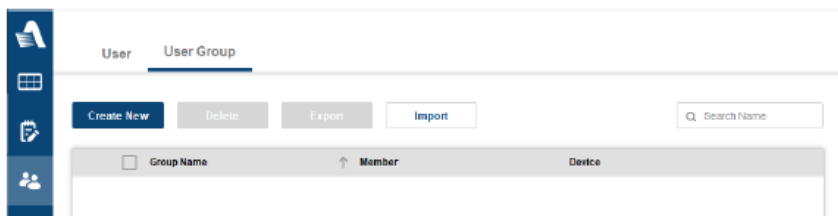
次の説明に従って、必要な情報を入力してください。

- ◆ **ホストドメイン**: AD/LDAPサーバーのIPアドレスまたはURL。
- ◆ **ポート**: RCMMSがAD/LDAPサーバーとの通信に使用するポート。
- ◆ **ユーザーがADへのログインに成功した場合、ユーザー情報を自動的に作成**: チェックを入れるとこの機能を有効にし、チェックを外すとこの機能を無効にします。
- ◆ **シングルサインオン**: チェックを入れるとこの機能を有効にし、チェックを外すとこの機能を無効にします。

変更を有効にするには、「**保存**」をクリックしてください。

## ユーザーグループ

操作を始めるには、 > 「ユーザーグループ」をクリックします。そうすると、下図のような画面が表示されます。



「ユーザーグループ」タブでは、次の機能を提供しています。

機能	説明
新規作成	ユーザーグループを作成します。詳細はp.36「ユーザーグループの追加」を参照してください。
削除	ユーザーグループを削除します。詳細はp.37「ユーザーグループの削除」を参照してください。
エクスポート	ユーザーグループを、*.ugd 形式のファイルでエクスポートします。詳細はp.37「ユーザーグループのエクスポート/インポート」を参照してください。
インポート	ユーザーグループを、*.ugd 形式のファイルからインポートします。詳細はp.37「ユーザーグループのエクスポート/インポート」を参照してください。
名前の検索	特定のユーザーグループをキーワード検索します。

## ユーザーグループの追加

1. 新しいユーザーアカウントを追加するには、「**新規作成**」をクリックします。
2. 表示されるダイアログボックスで、作成するグループに必要な情報を入力してください。

The screenshot shows the 'Edit User Group' dialog box. It features a title bar with the text 'Edit User Group' and standard window controls (minimize, maximize, close). The main area is divided into several sections: a 'Group Name' input field, a 'Users' input field, and a 'Select group devices' section. The 'Select group devices' section includes a 'Group Based' toggle switch (currently off) and a 'View only' button. Below this, there is a list of devices with checkboxes: 'Server', 'RCMDV1101', 'ian', and 'iantest'. At the bottom right of the dialog, there are 'Cancel' and 'Save' buttons.


- ◆ **グループ名**: 作成するグループの名前を定義してください。
- ◆ **ユーザー**: グループに追加するユーザーを選択してください。
- ◆ **グループデバイスの選択**: 一般ユーザー限定です。グループがアクセスできるRCMデバイスを選択してください。

### ➤ **グループ別**

- **表示のみ**: オプションで表示のみの切り替えをONにする(●)と特定のRCMデバイスの設定権限を拒否します。

3. 完了したら、「**保存**」をクリックしてください。RCMMSユーザーアカウントが作成されます。

## ユーザーグループの編集

ユーザーグループを編集するには、グループを選択して「編集」ボタン(  )をクリックしてください。

## ユーザーグループの削除

ユーザーグループを削除するには、グループを選択して(複数選択可)、「削除」ボタン( **Delete** )をクリックしてください。

## ユーザーグループのエクスポート/インポート

エクスポート/インポート機能により、アドミニストレーターは、ユーザーグループのバックアップと別のRCMMSへのインポートのために、すべてのユーザーグループを\*.ugd形式のユーザーリストにエクスポートすることができます。

# 第6章

## 設定

### 概要

「設定」画面には、RCMMSの以下の情報/設定が含まれています。

項目	説明
パネルアレイ	パネルアレイの画質・ストリーミング速度・アスペクト比、およびWinクライアントビューワーのデフォルトのウィンドウサイズを設定します。
システム	アドミニストレーターアカウントのみ、RCMMSの言語を設定します。
ホットキー	ホットキーを設定します。
アクセス制御	RCMデバイスに接続されたKVMアクセスコントロールボックスのプッシュボタンが押されたことをユーザーに通知するアラートを有効または無効にします。
スクリプト	以下を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 送信メールコマンドを含むRPAスクリプトの実行時にメールを送信するために使用されるSMTPサーバー</li><li>◆ RPAスクリプトを介して通信するときに使用されるTCP受信ポート</li></ul>
ログ	RCMMSのすべてのログを表示します。

# パネルアレイ

### Panel Array

Image quality Please select a suitable image quality based on the CPU performance of your system.

High Quality (100% native resolution)  
 Standard Quality (100% non-native resolution)  
 Low quality (90% non-native resolution)

Streaming speed   Auto Balance

Aspect ratio

Audio

---

### Viewer

Default window size  Execute Viewer in maximized size.

「パネルアレイ」タブで設定できる項目を以下に示します。

機能	項目	説明
パネルアレイ	画質	RCMデバイス/ポートのビデオの画質を、「高品質」、「標準」、「低品質」から選択します。
	ストリーミング速度	RCMデバイス/ポートのビデオのストリーミング速度を、「低」、「標準」、「High Speed」、または「リアルタイム」から選択します。
	アスペクト比	RCMデバイス/ポートのビデオの元のアスペクト比を保持するか無視するかを選択します。保持する場合は「実際のアスペクト比」または「アスペクト比を無視」を選択します。
	オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ パネルアレイでの再生</li> <li>◆ 常に再生</li> <li>◆ ミュート</li> </ul>
ビューワー	デフォルトのウィンドウサイズ	起動時にWinクライアントウィンドウが最大化されたウィンドウを自動的に表示するように、「最大化されたサイズでWinクライアントを実行する」をチェックします。

変更を有効にするには、「保存」をクリックしてください。

## システム

システムタブには、RCMMSの言語設定が含まれています。

**System Language**

Language

---

**System Security**

Login Failed Lock  The account will be locked after 3 failed login attempts.

---

**Viewer**

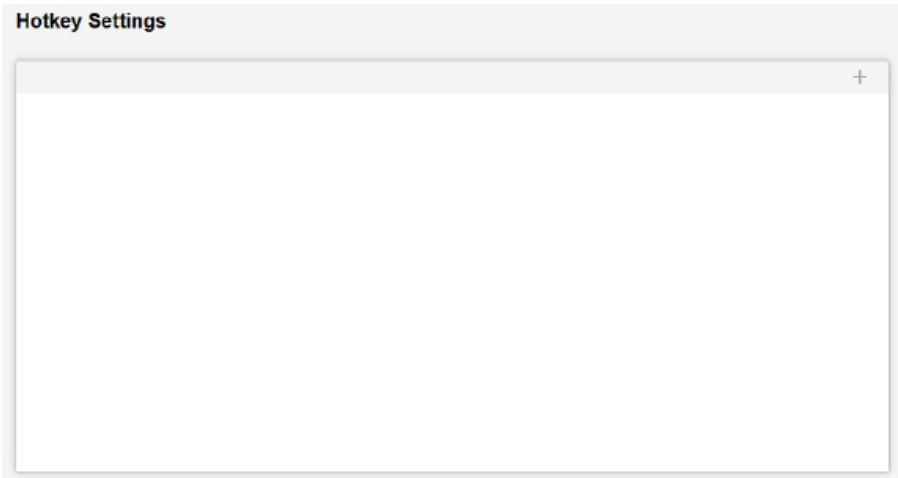
Viewer Type  Open the Viewer by WinClient.

Quick Login  Open WinClient via Quick Login.


機能	項目	説明
システム言語	言語	PCと同じ言語設定を使用するには、「システムロケール」を選択します。それ以外の場合は、ドロップダウンリストから目的の言語を選択します。
システムセキュリティ	ログインエラーロック	「ログインに3回失敗するとアカウントをロックする」にチェックを入れると、この機能を有効にします。
ビューワー	ビューワータイプ	「WinClientでビューワーを開く」にチェックを入れると、この機能を有効にします。
	クイックログイン	上記のビューワータイプが有効になっている場合、「クイックログインでWinClientを開く」にチェックを入れると、この機能を有効にします。

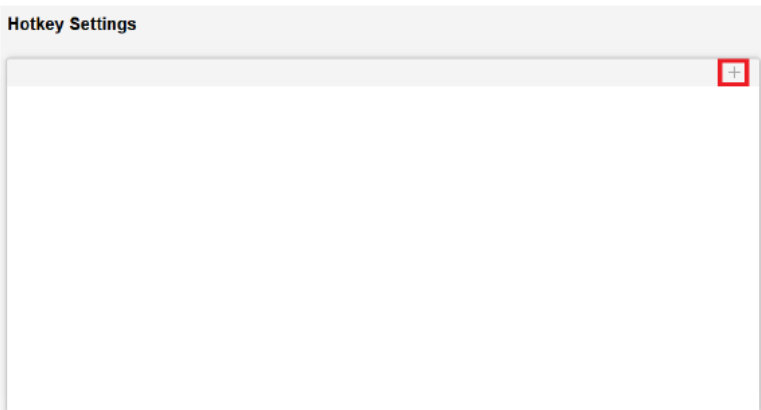
# ホットキー設定

---



ホットキーを追加するには、次の手順に従って操作してください。

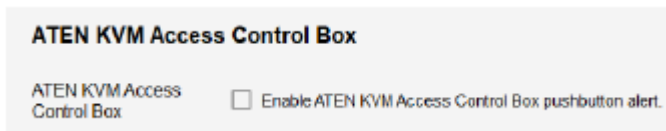
1.  をクリックして、新規ホットキーを作成します。



2. ホットキーを設定し、「保存」をクリックします。

## アクセス制御

---



**ATEN KVM Access Control Box**

ATEN KVM Access Control Box  Enable ATEN KVM Access Control Box pushbutton alert.

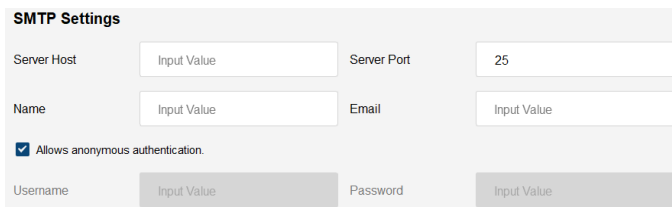
「その他」タブにおいて、ユーザーは、RCMデバイスに接続されたKVMアクセスコントロールボックスのプッシュボタンが押されたことを通知するアラートを有効にすることができます。

## スクリプト

---

### SMTP設定

SMTP設定は、RPAスクリプトでSend Mailアクションを実行するために使用されるSMTPサーバーと電子メールアカウントを設定するために使用されます。

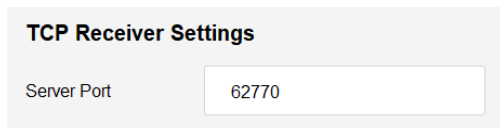


**SMTP Settings**

Server Host	<input type="text" value="Input Value"/>	Server Port	<input type="text" value="25"/>
Name	<input type="text" value="Input Value"/>	Email	<input type="text" value="Input Value"/>
<input checked="" type="checkbox"/> Allows anonymous authentication.			
Username	<input type="text" value="Input Value"/>	Password	<input type="text" value="Input Value"/>

### TCPLレシーバー設定

「TCPLレシーバー設定」では、RPAスクリプトでTCP Receiverを使用するときにRCMMSがデータを受信するポート値を変更できます。

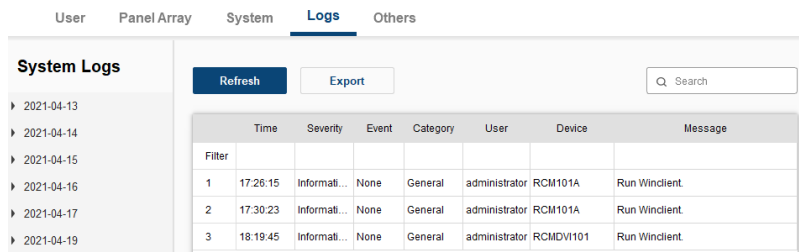


**TCP Receiver Settings**

Server Port	<input type="text" value="62770"/>
-------------	------------------------------------

# ログ

「ログ」タブでは、RCMMSシステムにおけるログレコードを最大200件保管できます。



	Time	Severity	Event	Category	User	Device	Message
Filter							
1	17:26:15	Informati...	None	General	administrator	RCM101A	Run Winclient.
2	17:30:23	Informati...	None	General	administrator	RCM101A	Run Winclient.
3	18:19:45	Informati...	None	General	administrator	RCMDV101	Run Winclient.

「ログ」タブには次の機能があります：

機能	説明
再読み込み	システムログのレコードを再読み込みします。
エクスポート	システムログレコードを*.logファイルとしてエクスポートします。
検索	キーワードを使用して特定のログを検索します。


# 第7章

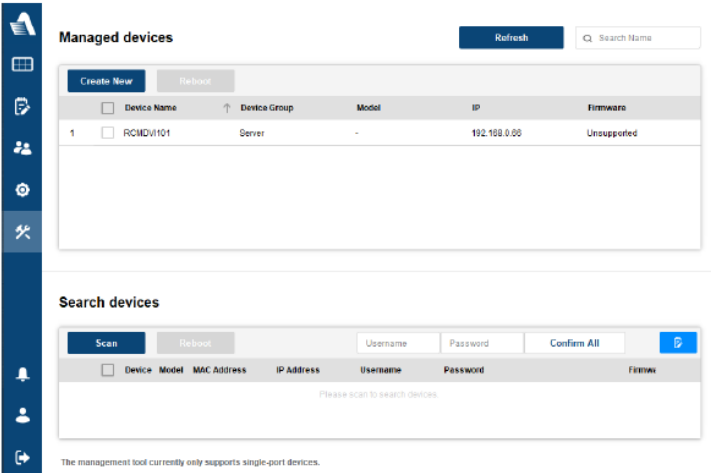
## デバイスの管理・検索

### 概要

アドミニストレーター限定の機能です。「デバイスの管理」画面では、デバイスの管理や検索を行うことができます。

### 管理対象デバイス

操作を始めるには、 をクリックします。そうすると、下図のような画面が表示されます。



The screenshot shows a web interface for managing devices. On the left is a vertical navigation menu with icons for home, dashboard, devices, users, settings, and a wrench icon. The main content area is divided into two sections:

- Managed devices:** Features a 'Refresh' button and a search box. Below are 'Create New' and 'Reboot' buttons. A table lists devices with columns for Device Name, Device Group, Model, IP, and Firmware. One device is listed: RCMDV101, Server, -, 192.168.0.00, Unsupported.
- Search devices:** Features a 'Scan' button and a 'Reboot' button. It includes input fields for Username, Password, and Confirm All. Below is a table with columns for Device, Model, MAC Address, IP Address, Username, Password, and Firmw. A message below the table reads: 'Please scan to search devices.'

At the bottom, a note states: 'The management tool currently only supports single-port devices.'

「管理対象デバイス」タブでは、次の機能を提供しています。

機能	説明
新規作成	RCMデバイスを作成します。詳細は、p.45「RCMデバイスの追加」を参照してください。
再起動	RCMデバイスを再起動します。
再読み込み	再読み込みして、利用可能なRCMデバイスを表示します。

## RCMデバイスの追加

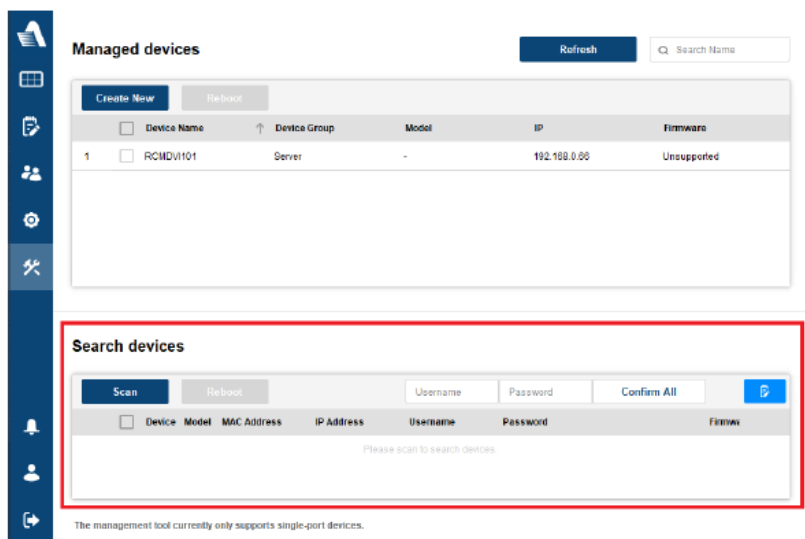
1. 新しいRCMデバイスを追加するには、「**新規作成**」をクリックします。
2. 表示されるダイアログボックスで、作成するRCMデバイスに必要な情報を入力してください。

The image shows a screenshot of a software dialog box titled "Edit Device". The dialog box has a blue header bar with the title and standard window controls (minimize, maximize, close). The main content area is white and contains several input fields and checkboxes. The fields are: "Name" (text input), "Group" (dropdown menu with "Server" selected), "IP" (text input), "Port" (text input with "9000" entered), "User Account" (text input), and "Password" (text input). Below these are "Audio" settings: "Support Audio" (checkbox), "KE Streaming" (checkbox), "KE Transmitter" (text input), and "KE Receiver" (text input). At the bottom of the dialog are two buttons: "Cancel" and "Save".


- ◆ **名前**: RCMデバイスに設定する名前を入力します。
  - ◆ **グループ**: RCM デバイスを分類する目的のグループを選択します。グループの作成方法は、p.15「グループの追加」を参照してください。
  - ◆ **IP、ポート、アカウント&パスワード**: RCMデバイスのIPアドレス、通信ポート、アカウント、パスワードを入力します。
  - ◆ **オーディオ**: 指定されたKEトランスミッターとKEレシーバーからのオーディオとKEストリーミングのサポートを有効にします。
    - **オーディオをサポートする**: オーディオサポートを有効または無効にします。
    - **KEストリーミング**: KEストリーミングを有効または無効にします。有効時は、KEストリーミングを有効にしたいKEトランスミッターとKEレシーバーのIPアドレスを入力します。
3. すべての情報を入力し終えたら、「**保存**」をクリックしてください。そうすると、RCMデバイスがRCMMSIに追加されます。

## デバイスの検索

まず、「管理対象デバイス」画面から「デバイスの検索」セクションを見つけます。



「デバイスの検索」タブでは、次の機能を提供しています。

機能	説明
スキャン	RCM デバイスをスキャンする方法を、自動スキャンと手動スキャンから選択します。
再起動	RCMデバイスを再起動します。
ユーザーネーム	選択したRCMデバイスに必要なユーザーネームを入力します。
パスワード	選択したRCMデバイスに必要なパスワードを入力します。
すべて確認 / 確認	ユーザーネームとパスワードを入力したら、「すべて確認」または「確認」をクリックします。
	RCMデバイス/ポートを編集します。

## 第8章

# Winクライアントビューワー

## 概要

---

Winクライアント(Windows Client)ビューワーを使用すると、接続されたRCMデバイスのKVMポートにリモートからアクセスできます。

## Winクライアントのコントロールパネル

---

コントロールパネルが画面中央上部に隠れている場合があります。これはマウスポインターを重ねると表示されます。



### 注意:

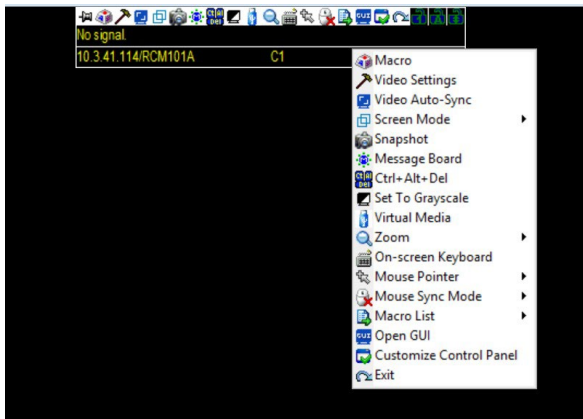
1. 上のイメージはコントロールパネル全体を示しています。表示されるアイコンはカスタマイズできます。

詳細については、p.78「コントロールパネルの設定」を参照してください。

2. コントロールパネルを画面上の別の場所に移動するには、テキストバーの領域上にマウスポインターを重ね、クリックしてドラッグしてください。
- ◆ デフォルトでは、上部のテキスト行にリモートディスプレイのビデオ解像度が表示されます。マウスポインターがアイコン上に移動すると、上部のテキスト行の情報がアイコンの機能を説明する表示に変わります。










また、別のユーザーがメッセージボードにメッセージを入力した場合は、上部のテキスト行に表示されます。










- 下側のテキスト行には、アクセスしているデバイスのIPアドレス(左側)とバス(スラッシュの前の中央)、および同一バス上のユーザー数(スラッシュの後ろの中央)が表示されます。
- テキスト行の領域を右クリックすると、同じメニューオプションが表示され、各アイコンの横に機能名が表示されます。これらの機能については、以降のセクションで説明します。




## コントロールパネルの機能

コントロールパネルの機能を以下の表に示します。

アイコン	機能
	コントロールパネルを常に表示するか、マウスをその上に置いたときのみ表示するかを切り替えます。
	クリックすると、「マクロ」ダイアログボックスが表示されます(詳細はp.52「マクロ」参照)。
	クリックすると、「ビデオオプション」ダイアログボックスを表示します。右クリックして、クイック自動同期を実行します(詳細については、p.63「ビデオ設定」を参照)。
	ビデオとマウスの自動同期を実行します。ビデオオプションダイアログボックスの自動同期ボタンをクリックするのと同じです(p.63「ビデオ設定」参照)。
	全画面表示とウィンドウモード表示を切り替えます。
	リモートディスプレイのスナップショット(スクリーンキャプチャー)を取得します。スナップショットに関するパラメーターの設定方法についてはp.80「スナップショット」を参照してください。
	メッセージボードを表示します(p.67「メッセージボード」参照)。
	[Ctrl]+[Alt]+[Del]信号をリモートシステムに送信します。
	リモートディスプレイの色とグレースケールを切り替えます。

アイコン	機能
	<p>バーチャルメディア・ダイアログボックスを表示します。バーチャルメディアのデバイスがポートにマウントされると、アイコンが変わります。詳細については、p.69「バーチャルメディア」を参照してください。</p> <p><b>注意:</b>このアイコンは、機能が無効になっているか、ユーザーが使用できない場合、灰色で表示されます。</p>
	<p>クリックすると、リモート画面のウィンドウをズーム表示します。</p> <p><b>注意:</b>この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードがOFF)でのみ使用できます。詳細は、p.74「ズーム」を参照してください。</p>
	<p>オンスクリーンキーボードを呼び出します(p.74「オンスクリーンキーボード」参照)。</p>
	<p>マウスポインターの種類を選択します。</p> <p><b>注意:</b>このアイコンは、選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります(p.76「マウスポインターの種類」参照)。</p>
	<p>マウスの自動同期または手動同期を切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「自動」を選択すると、アイコンに緑色のマークが表示されます。</li> <li>◆ 選択が手動の場合、アイコンの上に斜線が表示されます。p.76「マウスダイナシク」を参照してください。</li> </ul>
	<p>ユーザーマクロのドロップダウンマクロリストを表示します(詳細についてはp.52「マクロ」を参照)。</p>
	<p>デバイス設定のためにビューワー・ベースのGUIにアクセスします(p.81「GUIの起動」参照)。</p>
	<p>コントロールパネルのカスタマイズダイアログボックスを表示します(詳細についてはp.78「コントロールパネルの設定」を参照)。</p>
	<p>ビューワーを終了し、RCMMSに戻ります。</p>

アイコン	機能
	<p>これらのアイコンは、リモートコンピューターにおける[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロック状態がONの場合、アイコンは青色で強調表示されます。</li> <li>ロック状態がOFFの場合、アイコンは強調表示されません。アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。</li> </ul> <p><b>注意:</b>これらのアイコンとローカルキーボードのアイコンは同期しています。アイコンをクリックすると、それに応じてキーボードの対応LEDが変化します。同様に、キーボードのロックキーを押すと、アイコンの色がそれに応じて変化します。</p>

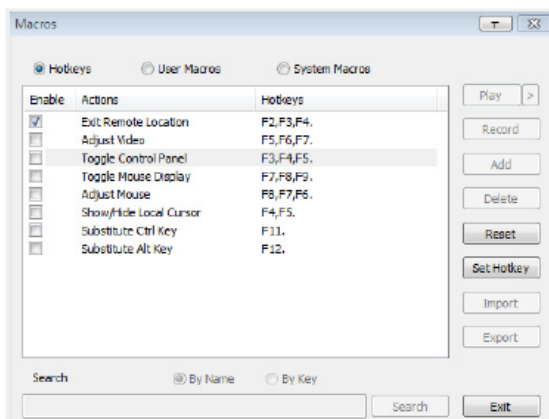
## マクロ



マクロアイコンは、マクロダイアログボックスの3つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスすることができます。これらの機能については、以下のセクションで説明します。

## ホットキー

コントロールパネルのアイコンをクリックして実行されるアクションは、キーボードから入力されたホットキーで直接実行することができます。「ホットキー」ラジオボタンを選択すると、アクションを実行するホットキーを設定することができます。アクションは左側に、また、そのアクションを行うホットキーはその右側に、それぞれ表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効/無効を設定してください。



デフォルトのホットキーの組み合わせでは不都合が生じる場合は、下記の手順でホットキーを変更することができます。

1. 対象となるアクションをリストから選択し、「**ホットキーの設定**」をクリックしてください。
2. 選択したファンクションキーを1つずつ押してください。押されたキーの名前が「**ホットキー**」欄に表示されます。
  - キー入力の順番が同じでなければ、同一ファンクションキーを複数のアクションに使用することができます。
  - ホットキーの設定を取り消す場合は「**キャンセル**」ボタンをクリックしてください。また、アクションの「**ホットキー**」欄を消去するには「**クリア**」ボタンをクリックしてください。
3. マクロキーの順番を入力し終わったら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

ホットキーの設定をすべてデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」ボタンをクリックしてください。

ホットキーの動作の説明を下表に示します。

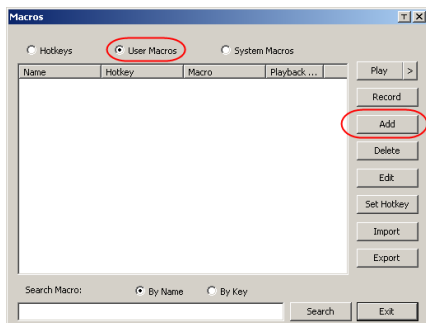
アクション	説明
リモート操作の終了	リモートビューを終了します。これは、コントロールパネルの「終了」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。
ビデオの調節	「ビデオ設定」ダイアログボックスを表示します。これは、コントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは[F5][F6][F7]に設定されています。
コントロールパネルの切替	コントロールパネルのONとOFFを切り替えます。デフォルトでは[F3][F4][F5]に設定されています。
マウス表示の切替	ローカルとリモートの2つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用して、機能しない方のマウスポインターを最小化することで見やすくすることができます。この機能はトグル式であるため、同じホットキーを再度入力するとマウス表示を元の設定に戻します。これは、コントロールパネルの「マウスポインター」アイコンをクリックし、「ドット」ポインターの種類を選択するのと同じです。デフォルトでは[F7][F8][F9]に設定されています。 <b>注意:</b> Javaコントロールパネルにはこの機能がありません。
マウスの調節	これにより、ローカルとリモートのマウスの動きが同期されます。デフォルトでは[F8][F7][F6]に設定されています。
ビデオの自動同期	この組み合わせは、自動同期操作を実行します。これは、コントロールパネルの「ビデオの自動同期」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは[F6][F7][F8]に設定されています。
ローカルカーソルの表示/非表示	ローカルマウスのポインターの表示のONとOFFを切り替えます。これは、コントロールパネルにある「マウスポインター」アイコンから「Null」ポインタータイプを選択するのと同じです。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。
代替Ctrlキー	ローカルコンピューターが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャーし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりに使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送信することができます。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11] + [5]と入力すると、リモートシステムでは[Ctrl] + [5]キーが押されたこととなります。デフォルトでは[F11]に設定されています。

アクション	説明
代替Altキー	<p>基本的にキーボードの入力はキャプチャーされ、リモートシステムへ送られますが、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]はローカルコンピューターでのみ動作します。リモートシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。例えば、[F12]を代替キーにした場合、[F12] + [Tab]と[Ctrl] + [F12] + [Del]と入力します。デフォルトのキーはF12です。</p>

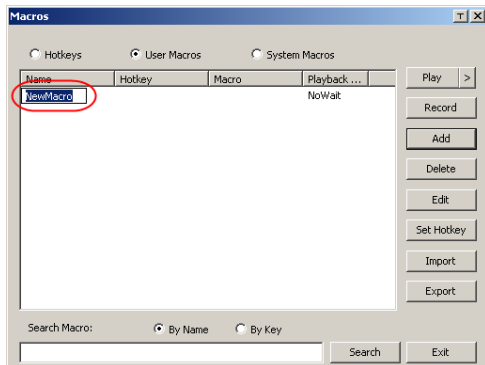
## ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、リモートサーバーで特定のアクションを実行するのに使用されます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

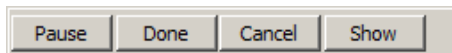
1. 「ユーザーマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。

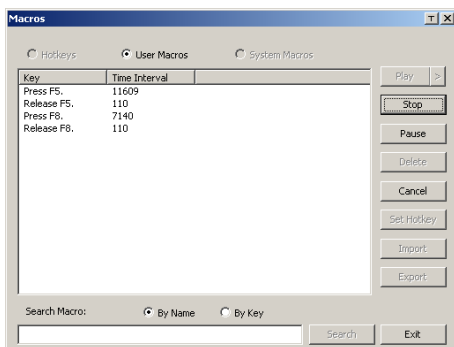


3. 「記録」をクリックしてください。ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロのキーを押してください。

- マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。
- 「表示」をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したすべてのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。



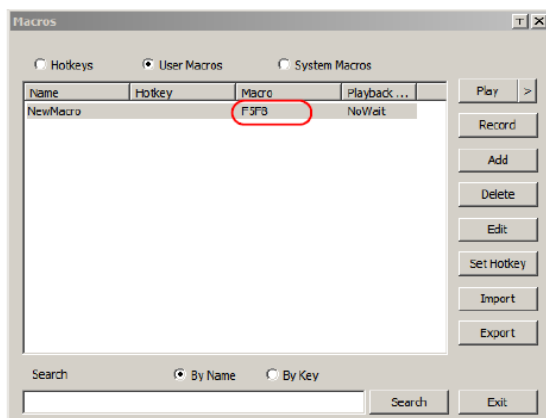
- 「キャンセル」をクリックすると、すべてのキー入力を取り消します。
- 入力が完了したら「停止」をクリックしてください。これは、手順5の「完了」をクリックするのと同じです。

---

**注意:**

- 大文字や小文字は区別されません。[A]と[a]のどちらを入力しても同じ結果となります。
  - マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
  - マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。例えば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字がAの場合、キーボード切り替えで取得した漢字は記録されません。
- 

5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了してください。「マクロ」列に押されたマクロキーが表示された状態で、「マクロ」ダイアログボックスに戻ります。

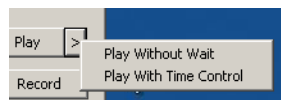


6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、キーストロークの内容や順序などを変更できます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

## マクロの実行

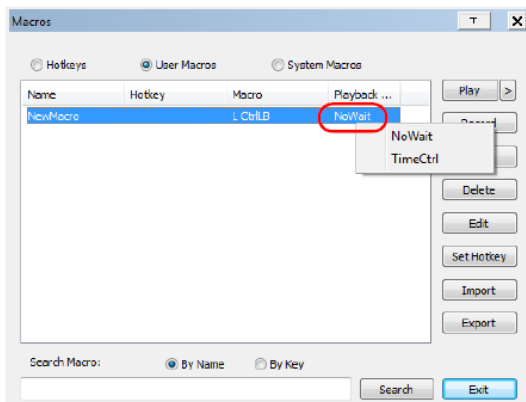
作成したマクロは、下記3つの方法のいずれかで実行することができます。

1. ホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、目的のマクロリストをクリックする。
3. このダイアログボックスを開いて、「再生」ボタンをクリックする。



このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定するオプションがあります。

- ◆ 「待機なしで再生」を選択した場合、マクロは時間遅延なしでキーを実行します。
- ◆ 「タイムコントロール再生」を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「再生」ボタンの隣にある矢印ボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「再生」ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの選択内容(「待機なし」または「タイムコントロール」)が「再生」列に表示されます。



現在の選択肢(上記のスクリーンショットでは「待機なし」)をクリックし、代替選択肢を選択することで、デフォルトの選択肢を変更できます。

---

#### 注意:

ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されます。

したがって、マクロの数、マクロ名のサイズ、またはそれら呼び出すホットキーの組み合わせの構成に制限はありません。

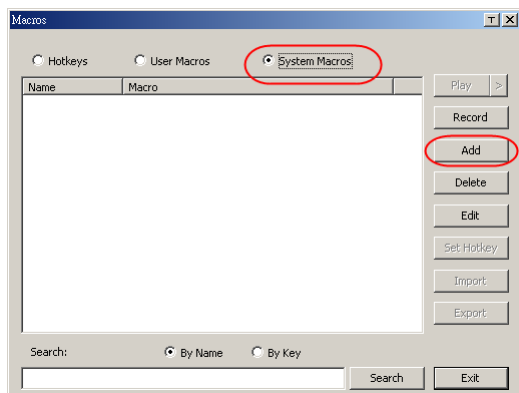
---

「検索」ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧の内容をフィルタリングして再生や編集を行うことができます。フィルタリングの条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力したら、「検索」ボタンをクリックしてください。この文字列に合致するものが、すべて上部パネルに表示されます。

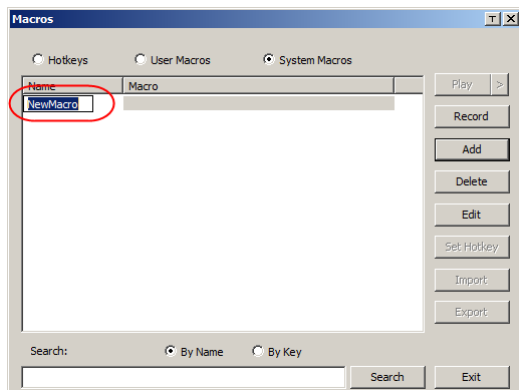
## システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておく、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができるため、セキュリティを強化することができます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

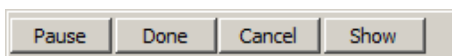
1. 「システムマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されます。必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



3. 「記録」をクリックしてください。ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。

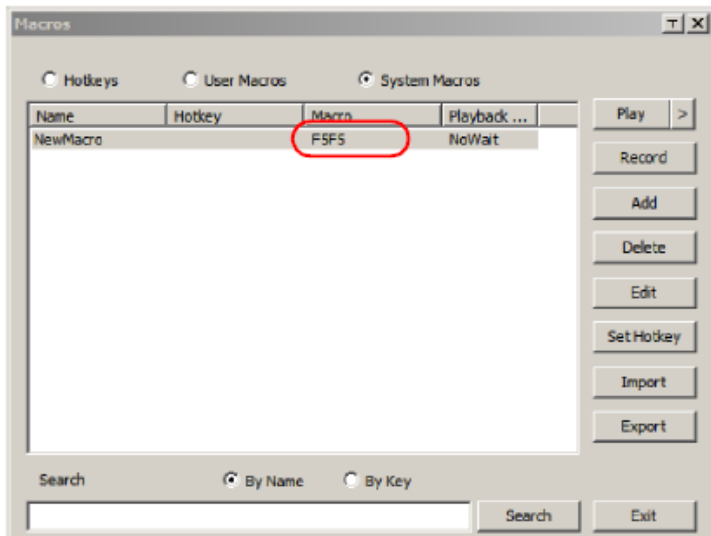


4. マクロのキーを押してください。
- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。
  - ◆ 「表示」をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したすべてのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。

---

**注意:**

- ◆ 大文字や小文字は区別されません。[A]と[a]のどちらを入力しても同じ結果となります。
  - ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
  - ◆ マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。例えば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字がAの場合、キーボード切り替えで取得した漢字は記録されません。
- 
5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了してください。「マクロ」ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステム マクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

システムマクロを作成したら、RCMデバイスからログアウトしたときに、そのいずれかを実行するように選択できます(RCM デバイスのユーザーマニュアルを参照)。

---

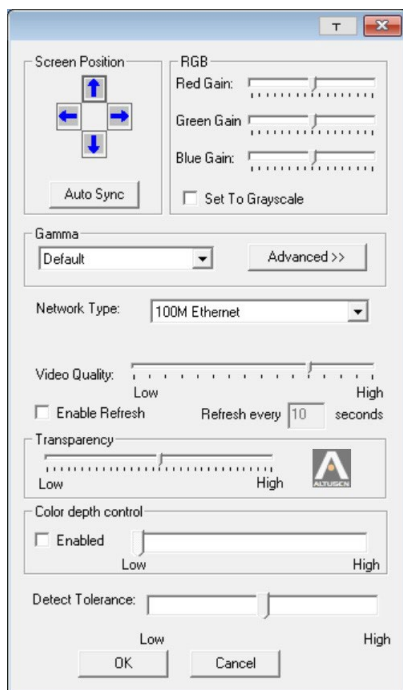
#### 注意:

1. 検索機能については、p.59を参照してください。
  2. システムマクロはRCMデバイスに保存されるため、マクロ名は英数字64文字以内で、ホットキーの組み合わせは256バイト以下にする必要があります(通常、各キーには3~5バイトを使用します)。
-


## ビデオ設定



「ビデオ設定」ダイアログボックスでは、モニター上のリモート画面における表示位置および画質の調節を行います。



調節オプションは次のとおりです。

オプション	使用方法
	クリックすると、ビデオ設定ダイアログボックスの透明度を調節します。
画面位置	矢印ボタンをクリックすると、リモートコンピューターウィンドウの水平位置と垂直位置を調節します。

オプション	使用方法
自動同期	<p>「自動同期」をクリックすると、リモート画面の垂直方向と水平方向のオフセット値が検出され、ローカル画面と自動的に同期されます。</p> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ローカルマウスポインターとリモートマウスポインターが同期していない場合、ほとんどの場合、この機能を実行することで同期が戻ります。</li> <li>この機能は、明るい画面で最適に動作します。</li> <li>結果に満足できない場合は、画面位置カーソルを使用してリモートディスプレイを手動で配置してください。</li> </ol>
RGB	<p>スライダーバーをドラッグしてRGB(赤、緑、青)の値を調節します。RGBの値の増加に伴って、画像のRGB要素も増加します。</p> <p>「グレースケールに設定」の項目を有効にすると、リモート画面をグレースケールで表示します。</p>
ガンマ	<p>このセクションでは、ビデオ表示のガンマレベルを調節できます。</p> <p>デフォルトのガンマレベルが理想的でない場合は、プリセットガンマレベルのリストのドロップダウンメニューをクリックして、そこから選択できます。10のプリセットと4つのユーザー定義レベルから選択できます。ユーザー定義レベルを定義するには、「詳細」ボタンを選択してください。この機能については、次のセクションで詳しく説明します。</p>
パフォーマンス	<p>ローカルクライアントコンピューターとRCMデバイス間に存在するインターネット接続のタイプを選択します。RCMデバイスは、その選択を使用して、ビデオ表示の品質を最適化するために、ビデオ品質と検出耐性設定を自動的に調節します。</p> <p>ネットワークの状態が異なるため、プリセットのオプションでは不都合が生じるかもしれません。そのような場合には、「カスタマイズ」を選択し、「ビデオ画質」と「検出許容値」のスライダーを使って、お使いの環境に適した値に調節してください。</p>
ビデオ品質	<p>スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調節します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワーク帯域によっては、値を大きくすると応答時間が低下する場合があります。</p>

オプション	使用方法
再読込を有効にする	<p>RCMMSは、1～99秒ごとに画面を再描画し、画面から不要なブロックノイズなどを除去することができます。「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1～99の整数で入力してください。RCMMSは、指定した間隔で画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効です。この機能を有効にするには、「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れてください。</p> <p><b>注意:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユニットは、マウスの動作が止まったタイミングでインターバル時間の計測を開始します。</li> <li>2. この機能を有効にすると、ネットワーク経由で送信されるビデオデータの量が増加します。設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。</li> </ol>
透明度	<p>GUIホットキー（[Scroll Lock][Scroll Lock]など）が呼び出されたときに表示されるツールバーの透明度を調節します。バーをスライドさせて、サンプルウィンドウの表示を好みに合わせてください。</p>
色深度の制御	<p>この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。</p>
許容値の検出	<p>この設定は、ビデオ品質にも関係します。ピクセル変更の検出または無視を制御します。設定を高くすると、データ転送量が少なくなるため、表示品質が低下する場合があります。設定を低くするとビデオ品質は向上しますが、しきい値を低く設定しすぎるとデータが転送されすぎてネットワークパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。</p>

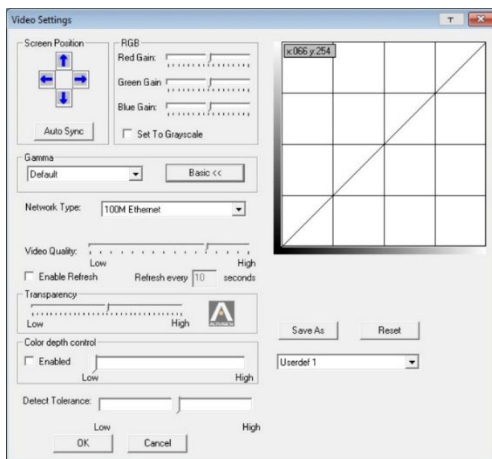
変更内容を保存し、ダイアログボックスを終了する場合は「OK」をクリックしてください。

変更内容を破棄し、ダイアログボックスを終了する場合は「キャンセル」をクリックしてください。

## ガンマ調節

リモートビデオ表示のガンマレベルを補正する必要がある場合は、ビデオ調節ダイアログボックスのガンマ機能を使用します。

「**詳細設定**」ボタンをクリックすると、次のダイアログボックスが表示されま  
す。



このセクションでは、ビデオ表示のガンマレベルを調節できます。

満足いく表示出力が得られるよう、希望する数のポイントで対角線をクリックしてドラッグしてください。

ガンマレベルが望ましい場合は、「名前を付けて保存」をクリックして、現在の設定を4つのユーザー定義設定のいずれかとして保存します。保存された値は、後でリストボックスから呼び出すことができます。

変更内容を破棄し、ガンマ線を元の状態に戻す場合は、「リセット」ボタンをクリックしてください。

---

### 注意:

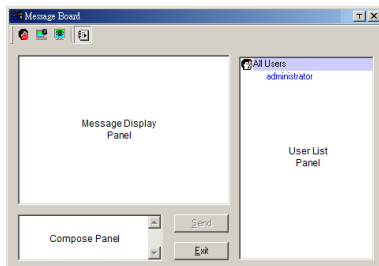
最適な結果を得るには、リモートコンピューターの画面を見ながら設定値の変更を行ってください。

---

## メッセージボード



複数のユーザーログインによるアクセス競合の可能性を軽減するために、RCMデバイスはユーザーの相互通信を実現するメッセージボードを提供します。



### ボタンバー

上部にあるボタンが切り替わります。各ボタンとその機能は下表のとおりです。

ボタン	アクション
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、メッセージボードに投稿されたメッセージは表示されず、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがチャット機能を無効にすると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード/ビデオ/マウスを占有/解放します。このボタンを使用して、KVMを占有することができます。あるユーザーがKVMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード/マウスからの入力ができなくなり、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがKVMを占有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード/マウスを占有/解放します。ポートが共有モードに設定されている場合（RCMデバイスのユーザーマニュアルを参照）、このボタンを使用してKMを占有することができます。あるユーザーがKMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボードやマウスからの入力ができなくなります。また、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがキーボード/マウスを占有していると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを表示/非表示にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが終了します。また、ユーザーリストが表示されている時、このボタンは網がけされた表示になります。

## メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに投稿したメッセージ(およびシステムメッセージ)は、このパネルに表示されます。ただし、チャットを無効にすると、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。

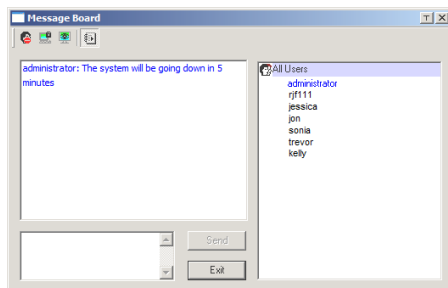
## メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「送信」をクリックするか、[Enter]キーを押して、メッセージをボードに投稿してください。

## ユーザーリストパネル

このパネルには、ログインしているすべてのユーザーの名前が表示されません。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトでは、メッセージはすべてのユーザーに宛に投稿されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「すべてのユーザー」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャットを無効にした場合は、無効アイコンがユーザーの名前の前に表示され、無効であることが示されます。
- ◆ ユーザーがKVMまたはKMを占有している場合は、ユーザーの名前の前に占有アイコンが表示され、そのことが示されます。






## バーチャルメディア



バーチャルメディア機能を使用すると、ローカルクライアントコンピュータ上のドライブ、フォルダー、イメージファイル、またはリムーバブルディスクを表示して、リモートサーバーにマウントされているかのように動作させることができます。バーチャルメディアは、ローカル側のクライアントコンピュータに差し込まれたリーダーを、あたかもリモート側のサーバーに差し込まれたかのように見せることができるスマートカードリーダー機能もサポートしています。

## バーチャルメディアのアイコン

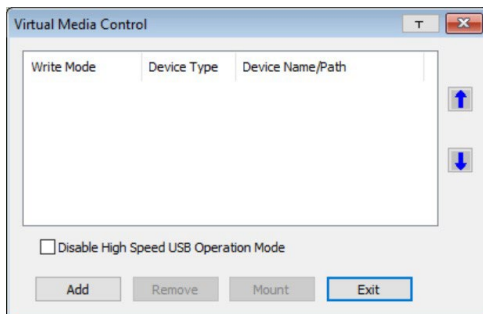
コントロールパネルのバーチャルメディアアイコンが変わり、バーチャルメディア機能が使用可能かどうか、またはバーチャルメディア・デバイスがすでにリモートサーバーにマウントされているかどうかを示されます。次の表を参照してください。

アイコン	機能
	アイコンが灰色で表示されている場合、バーチャルメディア機能が無効になっているか、使用できないことを示します。
	アイコンが青色で表示されている場合、バーチャルメディア機能が使用可能であることを示します。このアイコンをクリックすると、バーチャルメディアのダイアログボックスを表示します。
	青色のアイコンに×印が表示された場合は、バーチャルメディア・デバイスがリモートサーバーにマウントされたことを示します。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてマウントが解除されます。

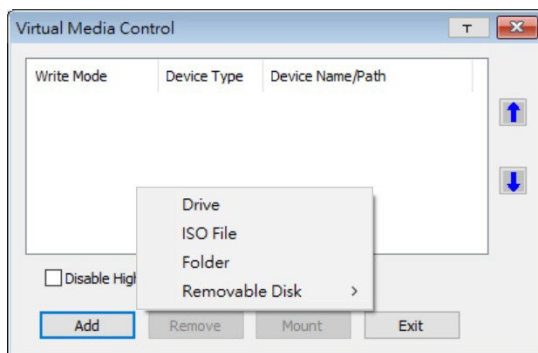
## バーチャルメディアのリダイレクト

バーチャルメディアのリダイレクト機能を実行する場合は、次の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして、「バーチャルメディアの操作」ダイアログボックスを表示してください。



2. 「追加」ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。

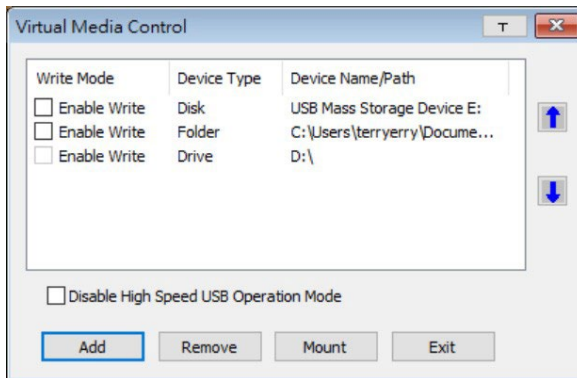


選択した項目によっては、ドライブ、ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクを選択するダイアログボックスが追加で表示されます。これらのメディアタイプのマウントの詳細については、RCMデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

3. ソースメディアを追加する場合は、「追加」ボタンをクリックして必要となるメディアをすべて選択してください。

最大3種類のバーチャルメディアをマウントできます。リストの上位3つの項目は、選択済みのもので、選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動対象となるデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックしてリスト内で位置を移動させてください。

4. 「読み込み」はリモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また「書き込み」はリモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ指しています。デフォルトでは、「書き込み」は有効になっていません(読み取り専用)。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可する場合は、「書き込みを有効にする」の項目にチェックを入れてください。

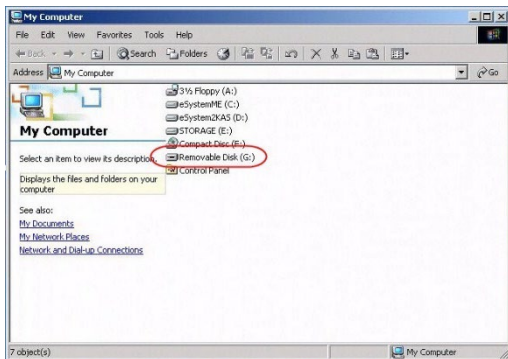


---

**注意:**

1. リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、またはユーザーに書き込みの操作権限がない場合、リスト中ではグレーで表示され、選択不可になります。
  2. サポートされるバーチャルメディア・タイプのリストについては、RCMデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。
- 
5. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択してから、「削除」ボタンをクリックしてください。
  6. ソースメディアの選択後に「マウント」ボタンをクリックすると、ダイアログボックスは終了します。選択されたバーチャルメディアのデバイスはリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのドライブ、ファイル、

およびフォルダーとして表示されます。



マウントされると、バーチャルメディアを実際にリモートサーバー上にあるかのように扱うことができます。ファイルをリモートシステム上でドラッグ&ドロップしたり、編集用にファイルを開き、リダイレクトされたメディアなどに保存したりすることができます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にはローカル側のファイルシステムに保存されます。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にローカルシステム側から取得することになります。

7. リダイレクトを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。

## スマートカードリーダー

---

### 注意:

この機能はWinクライアントビューワーまたはWindowsクライアントAPの使用時にのみ利用可能です。

---

この機能を使用すると、ローカルクライアントコンピューターのUSBポートに接続されているスマートカードリーダーをリダイレクトし、リモートサーバーに接続されているかのように見せることができます。スマートカード（共通アクセスカードなど）の目的の一つは、ローカルクライアントからリモートサーバーへの認証を許可することです。

スマートカードリーダーがローカルクライアントコンピューターに接続されている場合、この項目は「**バーチャルメディア**」ダイアログボックスを起動し「**追加**」ボタンをクリックした時に表示されます。

メニューから適切なものを選択したら、「**マウント**」をクリックしてリダイレクトを完了させてください。

---

### 注意:

スマートカードリーダーをマウントする場合、他のバーチャルメディア・デバイスをマウントすることはできません。すでにマウントされているバーチャルメディア・デバイスがある場合は、マウント解除してからスマートカードリーダーをマウントする必要があります。

---

## ズーム



ズームアイコンは、リモートビューウィンドウのズーム倍率を制御します。設定内容は以下のとおりです。

設定	説明
100%	リモートビューのウィンドウを100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを25%の倍率で表示します。
1:1	リモートビューのウィンドウを100%の倍率で表示します。この設定と100%設定の違いは、リモートビューウィンドウのサイズを変更しても、その内容はサイズ変更されず、元のサイズのままになることです。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させ、画面をスクロールしてください。

## オンスクリーンキーボード



RCMデバイスは、サポートされている各言語のすべての標準キーを備えた、複数の言語で使用可能なオンスクリーンキーボードをサポートしています。

このアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードがポップアップ表示されます。



オンスクリーンキーボードの主な利点の1つは、リモートシステムとローカ

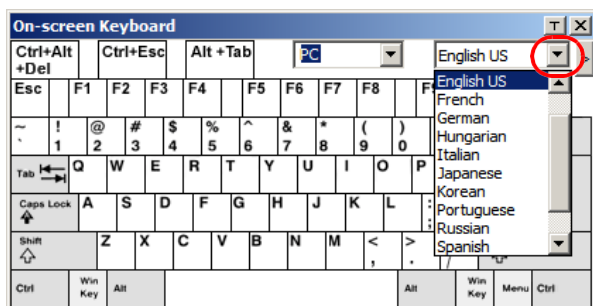
ルシステムのキーボード言語が同じでない場合でも、どちらのシステムの構成設定も変更する必要がないことです。ユーザーは画面上のキーボードを呼び出すだけで、アクセスしているポートでコンピューターが使用している言語を選択し、画面上のキーボードを使用して通信することができます。

**注意:**

オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。実際のキーボードで操作することはできません。

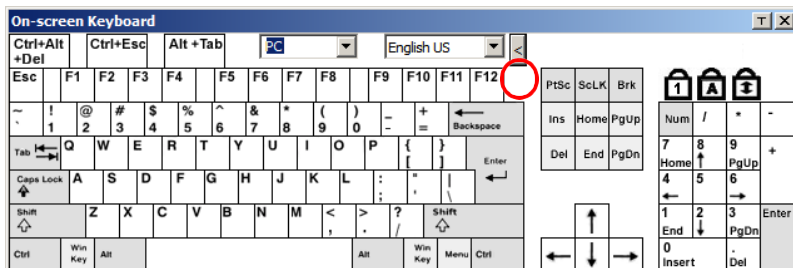
言語を変更するには、以下の手順で操作を行ってください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



2. リストから新しい言語を選択してください。

展開したオンスクリーンキーボードのキーの表示/非表示を切り替えるには、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。



## マウスポインターの種類



RCMデバイスは、リモートディスプレイでの作業時に、マウスポインターに関して複数のオプションを提供します。このアイコンをクリックして、使用したいタイプを選択してください。



---

### 注意:

コントロールパネルのアイコンは、選択したものに変わります。

---

## マウスダイナシク



このアイコンをクリックすると、ローカルとリモートのマウスポインターの同期を自動と手動のどちらで行うかを選択することができます。

### マウスの自動同期(ダイナシク)

マウスダイナシクは、リモートとローカルのマウスポインターを自動同期します。これにより、2つの動きを頻繁に再同期する必要がなくなります。

ツールバーのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

アイコン	機能
	このアイコンは、マウスダイナシクが使用可能で有効になっていることを示します。これは、マウスダイナシクが使用可能な場合のデフォルト設定です。
	このアイコンに×印が表示されている場合は、マウスダイナシクが使用可能であるものの、有効になっていないことを示します。

マウスダイナシクが使用可能な場合、アイコンをクリックすると有効または無効に切り替わります。マウスダイナシクモードを無効にする場合は、次のセクションで説明する手動同期の手順を実行する必要があります。

## 手動設定によるマウス同期

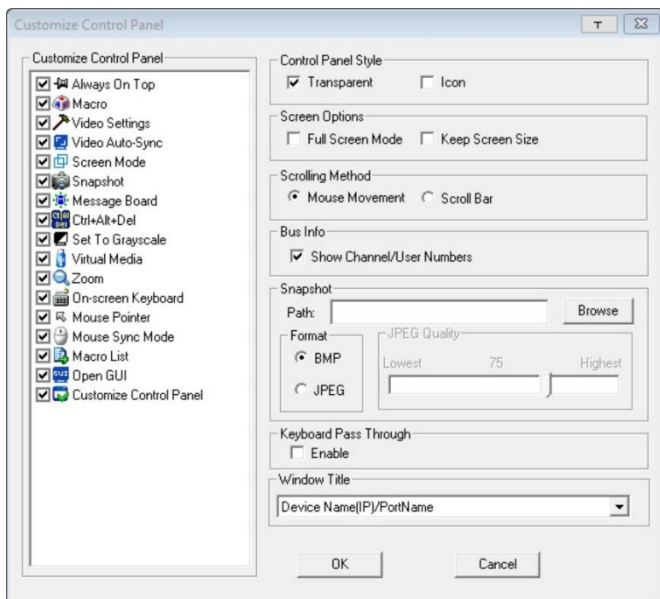
自動同期のマウスダイナシクではなく、手動のマウス同期を行い、かつローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. コントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックして、ビデオとマウスの自動同期を実行します (p.63参照)。
2. ビデオ調節機能で自動同期を実行します (詳細については、p.63「ビデオ設定」を参照してください)。
3. マウス調節ホットキーを使用して、マウス調節機能を起動してください (詳細はp.54「マウスの調節」参照)。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください (動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させてください。
6. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション (速度、精度) の設定を行ってください。詳細については、RCMデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

## コントロールパネルの設定



コントロールパネルのカスタマイズアイコンをクリックすると、グラフィカル設定とともに、次のようなコントロールパネルに表示される項目を設定できるダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスは、次の表で説明するように、6つのメインセクションから構成されています。

項目	説明
コントロールパネルのカスタマイズ	コントロールパネルに表示するアイコンを選択することができます。
コントロールパネルのスタイル	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ 「透明」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルが半透明になり、下にあるオブジェクトを確認することができます。</li><li>◆ 「アイコン」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルの上にマウスを置くまでコントロールパネルがアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に置くと、パネル全体が表示されます。</li></ul>

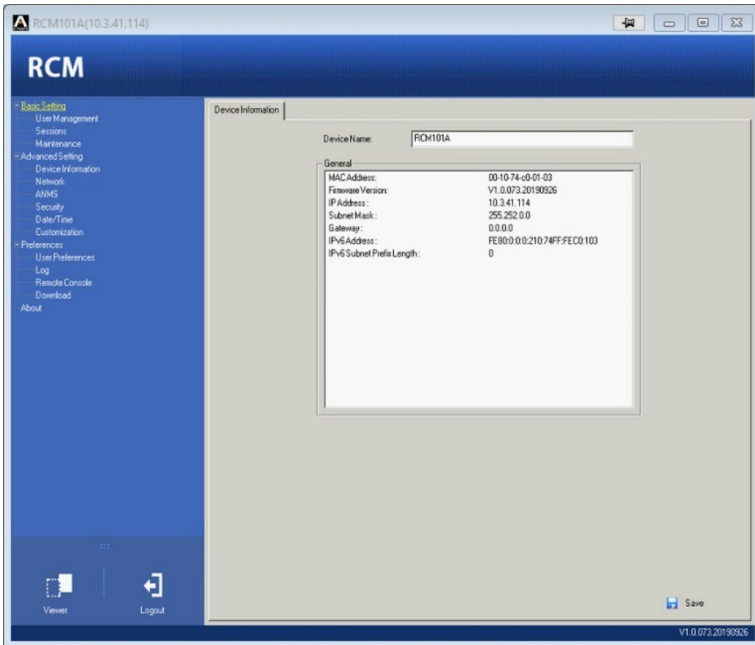
項目	説明
画面オプション	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「<b>フルスクリーンモード</b>」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。</li> <li>◆ <b>フルスクリーンモード</b>が有効になっていない場合、リモート側の画面はクライアント側のデスクトップにウィンドウ形式で表示されます。リモート画面がウィンドウに収まりきらない大きさの場合は、スクロールバーが表示されます。</li> <li>◆ 「<b>画面サイズを保持する</b>」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面のサイズは変更されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度より小さい場合、リモート側のデスクトップ画面はウィンドウ形式で画面の中央に表示されます。</li> <li>◆ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも大きい場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの大きさに合わせてサイズ調節されます。</li> </ul> </li> <li>◆ 「<b>画面サイズを保持する</b>」の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてサイズ変更されます。</li> </ul>
スクロール方法	<p>リモート画面の表示がモニターよりも大きい場合、画面外の領域にスクロールする方法を選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「マウスの動き」を選択すると、マウスポインターを画面の境界に移動したときに画面がスクロールします。</li> <li>◆ 「スクロールバー」を選択すると、画面の境界線の周りに表示されたスクロールバーを使用して画面外の領域にスクロールすることができます。</li> </ul>
バス情報	<p>バス情報が有効になっている場合、使用しているバス番号とそのバスにおけるユーザーの総数が、コントロールパネルの下段中央に「バス番号 / ユーザーの総数」の形式で表示されます(例については、p.48におけるコントロールパネルの図を参照してください)。</p>

項目	説明
スナップショット	<p>これらの設定により、ユーザーはRCMデバイスにおける画面キャプチャーのパラメーターを定義することができます (p.48「Winクライアントのコントロールパネル」におけるスナップショットの説明を参照) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「パス」は、キャプチャーした画面が自動的に保存されるディレクトリーを選択できます。「参照」ボタンをクリックし、対象となるフォルダーをフォルダーの選択ダイアログから選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでディレクトリーを指定しない場合、スナップショットはデスクトップに保存されます。</li> <li>◆ キャプチャーした画面のイメージの保存形式 (BMP、JPEG) をラジオボタンで選択してください。</li> <li>◆ JPEGを選択した場合は、キャプチャーした画像の画質をスライダーバーで調節することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。</li> </ul>
キーボード パススルー	<p>これを有効にすると、[Alt]+[Tab]キーの押下がリモートサーバーに渡され、そのサーバーに影響します。この項目が有効になっていない場合は、[Alt] + [Tab]のキー操作がローカルクライアントコンピューター上で実行されます。</p>
ウィンドウタイトル	<p>ドロップダウンメニューを使用して、ウィンドウタイトルに表示させるリモートサーバー情報を選択してください。</p>

## GUIの起動



「GUIの起動」アイコンをクリックすると、ビューワー・ベースのGUIを介してRCMデバイスを設定できるウィンドウが表示されます。



この画面で使用できるサイドバーのメニュー項目は、ユーザーの操作権限に基づいています。これらの機能の使用方法については、RCMデバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

## 対応製品

---

サポートされる製品のリストについては、RCMMS製品ページを参照してください。